

「参考情報」の内容について

この「参考情報」には、以下の項目を収録しています。

パソコン活用編 2

■ 設定ユーティリティの活用

INS メイト V30Slim の設定ユーティリティを使って通信料金や通信履歴などの情報を確認する方法について説明しています。

■ パソコンでの設定画面

INS メイト V30Slim の設定ユーティリティの画面と設定内容について説明しています。

■ いろいろな通信機能

INS メイト V30Slim を使った通信のいろいろな機能を紹介しています。

■ RS-232C ポートの設定

イーザーウィザードを使った RS-232C ポートの設定方法を説明しています。

手動設定編 45

イーザーウィザードが利用できない場合に、必要なソフトウェアをインストールする方法、インターネット接続の設定を行う方法について説明しています。

その他 65

■ AT コマンド

■ 設定記入シート

PDF ファイルをプリントアウトして設定内容を記入し、保守のための資料としてご利用ください。



お知らせ

- 画面表示はお使いのパソコンにより一部異なる場合があります。
- 「ユーザアカウント制御」画面が表示されることがあります。

パソコン活用編

- 1 設定ユーティリティの活用 …… 3
- 2 パソコンでの設定画面 …… 9
- 3 いろいろな通信機能 …… 26
- 4 RS-232C ポートの設定 …… 41

いろいろな情報を表示するには

通信料金、データ通信の履歴、バージョン情報を確認したり、設定ユーティリティのヘルプ画面を表示することができます。
画面は Windows® 10 の例です。

通信料金を確認する

直前の通信料金、累積の通信料金は、メニュー画面で確認することができます。
料金は、通信終了時に INS ネット 64 から通知される料金情報を利用しています。相手先によっては、INS ネット 64 から料金情報が通知されないため、料金を表示できない場合があります。

累積料金をゼロに戻すときにクリックします。確認のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

1 設定ユーティリティの活用

2 パソコンでの設定画面

3 いろいろな通信機能

4 Bluetooth設定

お知らせ

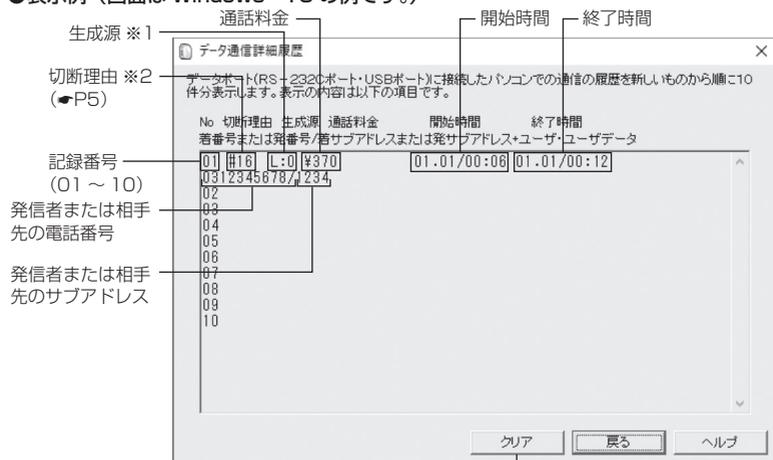
- 料金は目安ですので、請求書の額と一致しないことがあります。また、1円未満は切り捨てられます。
- 表示される料金は、最大 999999999999 円までです。
- 内線転送しても、最初に発信したアナログポートに料金が加算されます。
- 本商品に電池が入っていない状態で電源アダプタを抜くと、直前の料金情報と累積料金情報は消去されます。

いろいろな情報を表示するには

データ通信の詳細履歴を確認する

最新の通信開始日時、終了日時、相手先番号は、メニュー画面で確認することができます。
 [詳細履歴] をクリックすると、データ通信詳細履歴画面が表示されます。この画面では、接続したパソコンでの最新 10 件分の通信履歴を確認することができます。

●表示例（画面は Windows® 10 の例です。）



データ通信の履歴を消去するときをクリックします。確認のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

※ 1 生成源の値と意味

| 値 | 生成源 |
|---|-------------------|
| 0 | ユーザ |
| 1 | ローカルユーザ収容私設網（自分側） |
| 2 | ローカルユーザ収容公衆網（自分側） |
| 3 | 中継網 |
| 4 | リモートユーザ収容公衆網（相手側） |
| 5 | リモートユーザ収容私設網（相手側） |
| 7 | 国際網 |
| A | インタワーキング先の網 |

※ 2 切断理由の値と意味

| 値 | 切断理由 | 値 | 切断理由 |
|----|-------------------|-----|---------------------------------|
| 1 | 欠番 | 57 | 伝達能力不許可 |
| 2 | 指定中継網へのルートなし | 58 | 現在利用不可伝達能力 |
| 3 | 相手へのルートなし | 63 | その他のサービスまたはオプションの利用不可クラス |
| 6 | チャンネル利用不可 | 65 | 未提供伝達能力指定 |
| 7 | 呼が設定済みのチャンネルへ着呼 | 66 | 未提供チャンネル種別指定 |
| 16 | 正常切断 | 69 | 未提供ファシリティ要求 |
| 17 | 着ユーザビジー | 70 | 制限デジタル情報転送能力のみ可能 |
| 18 | 着ユーザレスポンスなし | 79 | その他のサービスまたはオプションの未提供クラス |
| 19 | 相手ユーザ応答なし（呼出中） | 81 | 無効呼番号値使用 |
| 20 | 加入者不在 | 82 | 無効チャンネル番号使用 |
| 21 | 通信拒否 | 83 | 指定された中断呼識別番号未使用 |
| 22 | 相手加入者番号変更 | 84 | 中断呼識別番号使用中 |
| 26 | 選択されなかったユーザの切断復旧 | 85 | 中断呼なし |
| 27 | 着側インタフェース起動不可 | 86 | 指定中断呼切断復旧済み |
| 28 | 無効番号フォーマット（不完全番号） | 87 | ユーザはCUGメンバではない |
| 29 | ファシリティ拒否 | 88 | 端末属性不一致 |
| 30 | 状態問い合わせへの応答 | 91 | 無効中断網選択 |
| 31 | その他の正常クラス | 95 | その他の無効メッセージクラス |
| 34 | 利用可回線／チャンネルなし | 96 | 必須情報要素不足 |
| 38 | 網故障 | 97 | メッセージ種別未定義または未提供 |
| 41 | 一時的失敗 | 98 | 呼状態とメッセージ不一致またはメッセージ種別未定義または未提供 |
| 42 | 交換機輻輳 | 99 | 情報要素未定義または未提供 |
| 43 | アクセス情報廃棄 | 100 | 情報要素内容無効 |
| 44 | 要求回線／チャンネル利用不可 | 101 | 呼状態とメッセージ不一致 |
| 47 | その他のリソース使用不可クラス | 102 | タイム満了による回復 |
| 49 | QOS 利用不可 | 111 | その他の手順誤りクラス |
| 50 | 要求ファシリティ未契約 | 127 | その他のインタワーキングクラス |



お知らせ

- 本商品に乾電池が入っていない状態で電源アダプタを抜くと、データ通信最新・詳細履歴は消去されます。

いろいろな情報を表示するには

バージョンを確認する

メニュー画面の [バージョン情報] をクリックすると、本商品のバージョン、設定ユーティリティのバージョンを確認することができます。



ヘルプを表示する

本商品の使い方を説明したヘルプを見ることができます。

●設定ユーティリティからヘルプを表示するには

メニュー画面の [ヘルプ] をクリックすると、本商品のヘルプ画面が表示されます。



ワンポイント

●スタートメニューからヘルプを表示するには

Windows® 10 の場合、[スタート] ボタンをクリックし、[INS メイト V30Slim ユーティリティ] - [INS メイト V30Slim 設定ユーティリティ ヘルプ] をクリックします。

Windows® 8.1 の場合は、スタート画面で [↓] ボタンをクリックし、[INS メイト V30Slim ユーティリティ] - [INS メイト V30Slim 設定ユーティリティ ヘルプ] をクリックします。

Windows® 7 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] - [INS メイト V30Slim ユーティリティ] - [INS メイト V30Slim 設定ユーティリティ ヘルプ] をクリックします。

設定値をパソコンに保存するには

本商品に設定した設定値をパソコンに保存することができます。
画面は Windows® 10 の例です。

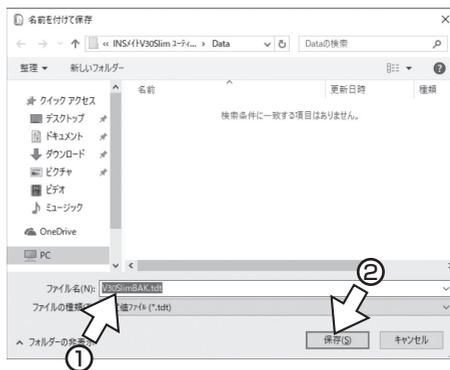
設定値をパソコンに保存する

1 メニュー画面の【保存】をクリックする。



2 ファイル名を入力し、【保存】をクリックする。

設定値を記録したファイルがパソコンに保存されます。



ワンポイント

● ファイルを保存するフォルダについて

設定値を記録したファイルを保存する場所（フォルダ）は変更することができます。

お買い求め時の設定は、ご使用の OS（32 ビット版／64 ビット版により、以下のフォルダとなります。

32 ビット版：OS がインストールされているドライブの [Program Files] - [INS メイト V30Slim ユーティリティ] - [Data] です。

64 ビット版：OS がインストールされているドライブの [Program Files (x86)] - [INS メイト V30Slim ユーティリティ] - [Data] です。

設定値をパソコンに保存するには

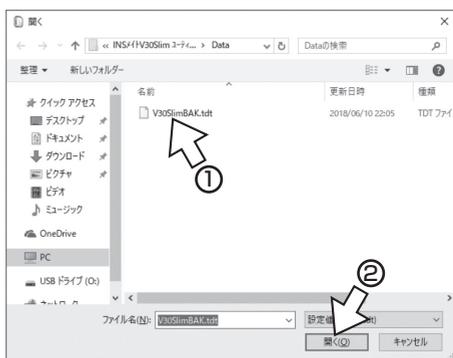
設定値をパソコンから読み出す

1 メニュー画面の【読込】をクリックする。



2 ファイル名を指定し、【開く】をクリックする。

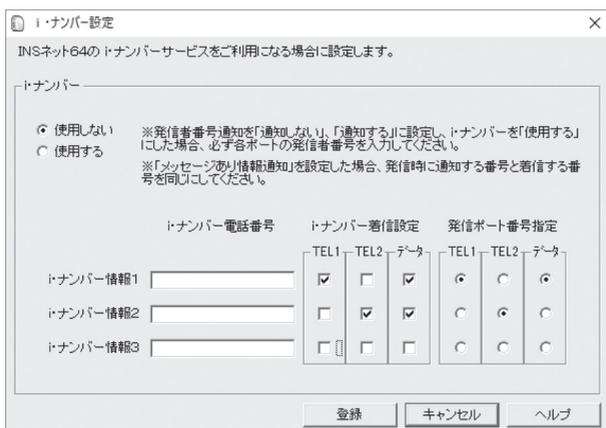
パソコンに保存していた設定値を設定ユーティリティに読み込みます。



3 本商品に設定値を保存するには、メニュー画面で【終了】をクリックしたのち、【OK】をクリックする。

i・ナンバー設定画面

メニュー画面で [i・ナンバー設定] をクリックすると表示される画面です。i・ナンバーをご利用になる場合に設定します。
画面は Windows® 10 の例です。



※下線_は、お買い求め時の設定です。

| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|-----------------------------|-------------------------------------|--|
| i・ナンバー (取扱説明書 ▶P116) | i・ナンバーを利用するとき、「使用する」を選択します。 | <u>使用しない</u> 使用する |
| i・ナンバー電話番号 (取扱説明書 ▶P116) | i・ナンバーの電話番号を入力します。 | i・ナンバー情報 1 : 対応した電話番号 (最大 20 桁) i・ナンバー情報 2 : 対応した電話番号 (最大 20 桁) i・ナンバー情報 3 : 対応した電話番号 (最大 20 桁) |
| i・ナンバー着信設定 (取扱説明書 ▶P116) | それぞれの番号に着信があったとき、どのポートを呼び出すかを選択します。 | i・ナンバー情報 1 : <u>TEL1</u> TEL2 データ i・ナンバー情報 2 : TEL1 <u>TEL2</u> データ i・ナンバー情報 3 : TEL1 TEL2 データ |
| 発信ポート番号指定 (取扱説明書 ▶P116) | それぞれのポートから発信するとき、どの番号を通知するかを選択します。 | i・ナンバー情報 1 : <u>TEL1</u> TEL2 データ i・ナンバー情報 2 : TEL1 <u>TEL2</u> データ i・ナンバー情報 3 : TEL1 TEL2 データ |



お知らせ

- i・ナンバーを「使用する」に設定した場合は、グローバル着信の設定は無効です。

1
リ
テ
ィ
の
活
用

2
パ
ソ
コ
ン
で
の
設
定
画
面

3
い
ろ
い
ろ
な
通
信
機
能

4
P
R
O
C
E
S
S
の
ポ
ー
ト
の
設
定

TEL1 ポート設定画面 / TEL2 ポート 設定画面

メニュー画面で [TEL1 ポート設定] をクリックすると TEL1 ポート設定画面、[TEL2 ポート設定] をクリックすると TEL2 ポート設定画面が表示されます。TEL1 ポート、TEL2 ポートそれぞれの画面で設定を行います。

例は TEL1 ポート設定画面です。画面は Windows® 10 の例です。

■ 発信・着信 1

※下線_は、お買い求め時の設定です。

| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|-------------------------------|---|--|
| 発信者番号 (取扱説明書 ▶P106) | 発信するときに通知する電話番号を入力します。 | 電話番号 (最大 32 桁) |
| 着信する番号 (取扱説明書 ▶P118) | このアナログポートに着信する電話番号を入力します。1つのアナログポートに最大 8 個の電話番号を設定できます。 | 電話番号 (最大 32 桁) |
| サブアドレス (取扱説明書 ▶P124) | このアナログポートに設定するサブアドレスを入力します。 | サブアドレス (最大 19 桁) |
| 発信者番号通知 (取扱説明書 ▶P107) | このアナログポートから発信するとき、発信者番号を通知するかどうかを設定します。 | 発信者番号通知する 発信者番号通知しない <u>INS ネット 64 申込内容に従う</u> |
| サブアドレスなし着信する (取扱説明書 ▶P124) | サブアドレスが指定されていない着信を受けるかどうかを設定します。 | <u>着信する</u> 着信しない |
| グローバル着信する (取扱説明書 ▶P118) | INS ネット 64 のグローバル着信の利用を契約している場合、このポートでグローバル着信を利用するかどうかを設定します。 | <u>着信する</u> 着信しない |



ワンポイント

● 着信する番号をすべて消去するには

着信する番号欄の下にある [クリア] をクリックすると、電話番号をすべて消去することができます。



お知らせ

- 発信者番号通知を「通知しない」または「通知する」に設定し、i・ナンバーを「使用する」に設定した場合は、必ず発信者番号（取扱説明書 ●P106）を正しく設定してください。
- 「サブアドレスなし着信する」を選択しない場合は、サブアドレスのない着信（相手が契約者回線番号、i・ナンバー電話番号または追加番号のみで発信）は受けられなくなります。



お願い

- 発信者番号を正しく設定しない場合、相手に発信者番号（取扱説明書 ●P106）が正しく通知されません。また、INS ネット64 サービスが利用できない場合がありますので、発信者番号を正しく設定してください。

■ 発信・着信 2

※下線_は、お買い求め時の設定です。

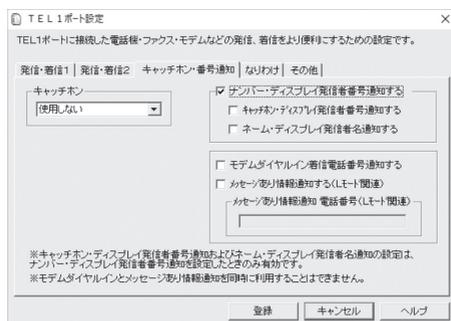
| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|---------------------------|--|---|
| 接続機器 (取扱説明書 ▶P125) | このアナログポートに接続する機器を選択します。HLCの設定を「する」にしたときは、発信側のHLCの設定とここで設定した内容が異なる場合は、着信しないことがあります。 | 接続しない 電話機 ファクス付き電話機・モデム・Lモード対応電話機 |
| 発信規制 (取扱説明書 ▶P75) | このアナログポートに接続したアナログ通信機器からの発信を規制するときに設定します。1桁目が「0」の電話番号への発信を規制する場合は「0発信規制」、すべての外線発信を規制する場合は「外線発信規制」を選択します。 | 規制しない 0発信規制 外線発信規制 |
| 着信拒否する (取扱説明書 ▶76) | このアナログポートに接続したアナログ通信機器で着信を受けないときに設定します。 | しない する |
| HLCを設定する (取扱説明書 ▶P125) | HLC(高位レイヤ整合性)を利用するときに設定します。「する」にしたときは、「接続機器」で設定した内容が、発信側のHLCの設定と一致したときに着信を受けられます。 | しない する |



お知らせ

- アナログポートにファクス付き電話機を接続したときは、相手が電話でもファクスでも着信を受けられるように「HLCを設定する」のチェックを外してください。

■ キャッチホン・番号通知



※下線_は、お買い求め時の設定です。

| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|---|---|---------------------------------|
| キャッチホン (取扱説明書 ●P82) | INS キャッチホンまたは疑似キャッチホンを利用するときに設定します。 | 使用しない 疑似キャッチホン INS キャッチホン |
| ナンバー・ディスプレイ 発信者番号通知する (取扱説明書 ●P108) | ナンバー・ディスプレイを利用するときに設定します。 | しない する |
| キャッチホン・ディスプレイ 発信者番号通知する (取扱説明書 ●P110) | キャッチホン・ディスプレイを利用するときに設定します。 | しない する |
| ネーム・ディスプレイ 発信者名通知する (取扱説明書 ●P112) | ネーム・ディスプレイを利用するときに設定します。 | しない する |
| モデムダイヤルライン着信 電話番号通知する (取扱 説明書 ●P120、122) | モデムダイヤルラインを利用するときに設定します。 | しない する |
| メッセージあり情報通知 する (L モード関連) (取扱説明書 ●P99、101) | INS メッセージ到着お知らせサービスを利用して、アナログ通信機器にメッセージあり情報を通知するときに設定します。 | しない する |
| メッセージあり情報通知 電話番号 (L モード関連) (取扱説明書 ●P99、101) | L モードまたはINSメッセージ到着お知らせサービスで使用する電話番号が表示されます。 発信者番号 (●P10) を入力すると自動的に設定されます。 | |



お知らせ

- キャッチホン・ディスプレイ発信者番号通知およびネーム・ディスプレイ発信者名通知の設定は、ナンバー・ディスプレイ発信者番号通知を設定したときのみ有効です。
- モデムダイヤルラインとメッセージあり情報通知を同時に利用することはできません。

1
設定ユーティ
リティの活用

2
パソコンで
設定画面

3
いろいろな
通信機能

4
RS-232C
ポートの設定

■ なりわけ

※下線_は、お買い求め時の設定です。

| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|-----------------------------|---|------------------------------------|
| INS なりわけする (取扱説明書 ▶P86) | INS なりわけサービスを利用するときに設定します。 | <u>しない</u> する |
| 疑似なりわけする (取扱説明書 ▶P87) | 疑似なりわけを利用するときに設定します。 | <u>しない</u> する |
| なりわけ動作設定 (取扱説明書 ▶P86、87) | INS なりわけサービスまたは疑似なりわけを利用する場合、なりわけの動作を選択します。 | 識別リングング セキュリティ (着信拒否) |
| 疑似なりわけ番号 (取扱説明書 ▶P87) | 疑似なりわけに登録する電話番号を入力します。サブアドレスを設定することもできます。 | 電話番号 (最大 32 桁) サブアドレス (最大 19 桁) |



ワンポイント

● 疑似なりわけ番号をすべて消去するには

疑似なりわけ番号欄の右下にある [クリア] をクリックすると、電話番号、サブアドレスをすべて消去することができます。

■ その他

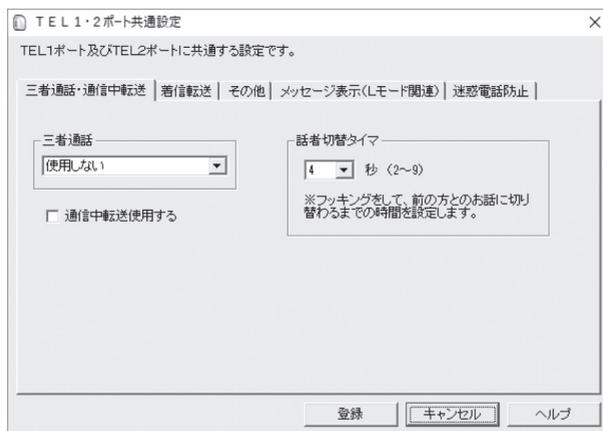
※下線_は、お買い求め時の設定です。

| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|------------------------------|--|---|
| FAX 無鳴動着信する (取扱説明書 ●P105) | FAX 無鳴動着信を利用するかどうかを選択します。 | <u>しない</u> する |
| 受話音量調整 (取扱説明書 ●P75) | このアナログポートに接続したアナログ通信機器の受話音量を調整します。 | 小 <u>中</u> 大 |
| 内線呼出信号設定 (取扱説明書 ●P79) | 内線通話、内線転送のときの呼出音を選択します。 | 呼出信号 1 「ブルルル、ブルルル…」 呼出信号 <u>2</u> 「ブルブル、ブルブル…」 |
| ダイヤル種別 (取扱説明書 ●P31、75) | このアナログポートにダイヤル式 (DP) のアナログ通信機器を接続するとき、「DP 固定」に設定します。 | PB 固定 DP 固定 |

TEL1・2ポート共通設定画面

メニュー画面で [TEL1・2ポート共通設定] をクリックすると表示される画面です。画面は Windows® 10 の例です。

■ 三者通話・通信中転送



※下線_は、お買い求め時の設定です。

| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|---------------------------|---|-----------------------------|
| 三者通話 (取扱説明書 ●P92) | フレックスホンの三者通話、または疑似三者通話を利用するときに設定します。 | 使用しない 疑似三者通話する 三者通話する |
| 通信中転送使用する (取扱説明書 ●P97) | 通信中転送を利用するかどうかを選択します。 | 使用しない 使用する |
| 話者切替タイム (取扱説明書 ●P96) | 三者通話などで話す相手を切り替えるとき、フッキングをしてから別の相手とのお話しに切り替わるまでの時間を設定します。 | 2～9 (秒) (お買い求め時: 4 秒) |

■ 着信転送

※下線_は、お買い求め時の設定です。

| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|-------------------------------------|---|--|
| 着信転送 (取扱説明書 ▶P128) | フレックスホンの着信転送、または疑似着信転送を利用するときに設定します。 | 使用しない 疑似着信転送する 着信転送する |
| 着信転送トーン設定 (取扱説明書 ▶P128) | フレックスホンの着信転送をご利用のとき、電話をかけてきた方、転送する相手に流す音声(トーン)を設定します。 | 転送トーンなし、転送元トーンなし 転送トーンあり、転送元トーンなし 転送トーンなし、転送元トーンあり 転送トーンあり、転送元トーンあり |
| 着信転送 転送元・転送先電話番号設定 (取扱説明書 ▶P129) | 着信転送の転送元電話番号、転送元サブアドレス、転送先電話番号を設定します。契約者回線番号用、ダイヤルイン/i・ナンバー用1、ダイヤルイン/i・ナンバー用2のそれぞれについて設定できます。 | 転送元電話番号 (最大 32 桁) 転送元サブアドレス (最大 19 桁) 転送先電話番号 (最大 32 桁) |

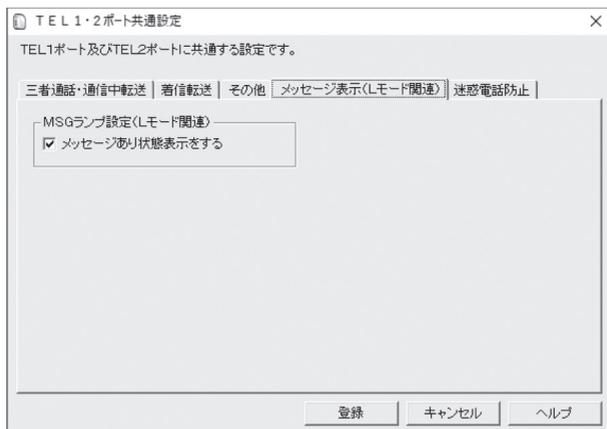
TEL1・2ポート共通設定画面

■ その他

※下線_は、お買い求め時の設定です。

| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|-------------------------------------|---|-----------------------------|
| 優先着信ポート指定 (取扱説明書 ●P81) | どちらかのアナログポートを優先的に着信させたいときに設定します。 | 指定しない TEL1ポート TEL2ポート |
| FAX自動転送する (取扱説明書 ●P103) | FAX自動転送を利用するときに設定します。 | <u>しない</u> する |
| 内線機能使用する (取扱説明書 ●P79) | 内線通話、内線転送を使用するかどうかを選択します。 | 使用しない <u>使用する</u> |
| フッキング検出タイム (取扱説明書 ●P79) | フックスイッチを長めに押してもフッキングと認識させる場合は「長い」に、短めに押してもフッキングと認識させる場合は「短い」に設定します。 | 短い <u>普通</u> 長い |
| ダイヤル終了識別 (取扱説明書 ●P75) | ダイヤル終了時にⓂボタンを押しても発信できないようにする場合は「しない」に、Ⓜボタンを2回押して発信できるようにする場合は「する(##)」に設定します。 | しない する(＃) する(##) |
| ダイヤル桁間タイム (取扱説明書 ●P75) | ダイヤルボタンを押してから自動的に発信するまでの間隔を設定します。 | 2～15(秒) (お買い求め時：4秒) |
| モデムダイヤルライン用契約者回線番号 (取扱説明書 ●P122) | モデムダイヤルラインを利用する場合、契約者回線番号で着信したときに通知する電話番号を設定します。必ず市内局番から設定します。通常は、契約者回線番号を設定してください。 | 電話番号(最大20桁) |

■ メッセージ表示（Lモード関連）



※下線_は、お買い求め時の設定です。

| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|--------------------------------------|--|--|
| MSG ランプ設定（Lモード関連） （取扱説明書●P99、101） | LモードまたはINSメッセージ到着お知らせサービスをご利用の場合、メッセージあり状態をランプで表示するときに設定します。 | <u>メッセージあり状態表示をする</u> メッセージあり状態表示をしない |

■ 迷惑電話防止

※下線_は、お買い求め時の設定です。

| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|----------------------------|---|----------------|
| 非通知拒否設定 (取扱説明書 ▶P91) | 相手が電話番号を通知してこない場合の着信を拒否するときに設定します。 | 拒否する 拒否しない |
| 着信履歴 | TEL1 ポート、TEL2 ポートの最新の着信履歴 1 件の電話番号、サブアドレスが表示されます。 | |
| この番号を登録 | クリックすると、着信履歴に表示されている電話番号が迷惑電話防止電話番号に登録されます。 | |
| 迷惑電話防止電話番号 (取扱説明書 ▶P90) | 着信を拒否する相手の電話番号を入力します。最大 20 件登録できます。 | 電話番号 (最大 32 桁) |



ワンポイント

● 登録した迷惑電話防止電話番号をすべて消去するには

画面左下にある [クリア] をクリックすると、電話番号をすべて消去することができます。



お知らせ

● 相手の電話番号が通知されないときは、「着信履歴 TEL1」および「TEL2」の電話番号欄に、電話番号を表示できない理由の記号が表示されます。

表示される記号の種類と意味

P：相手が電話番号を通知しない操作をしたとき

相手電話番号を通知しない契約になっているとき

O：INS ナンバー・ディスプレイを提供していない地域からかかってきたとき

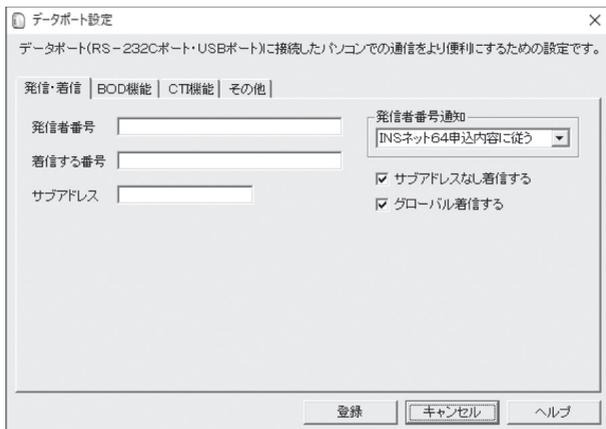
C：公衆電話からかかってきたとき

S：サービスが競合しているために電話番号を通知できないとき

データポート設定画面

メニュー画面で [データポート設定] をクリックすると表示される画面です。画面は Windows® 10 の例です。

■ 発信・着信



※下線_は、お買い求め時の設定です。

| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|-------------------------------|---|---|
| 発信者番号 (取扱説明書 ●P106) | 発信するときに通知する電話番号を入力します。 | 電話番号 (最大 32 桁) |
| 着信する番号 (取扱説明書 ●P118) | RS-232C ポートまたは USB ポートに着信する電話番号を入力します。 | 電話番号 (最大 32 桁) |
| サブアドレス (取扱説明書 ●P124) | RS-232C ポートまたは USB ポートに設定するサブアドレスを入力します。 | サブアドレス (最大 19 桁) |
| 発信者番号通知 (取扱説明書 ●P106) | RS-232C ポートまたは USB ポートから発信するとき、発信者番号を通知するかどうかを設定します。 | 発信者番号通知する 発信者番号通知しない INS ネット 64 申込内容に従う |
| サブアドレスなし着信する (取扱説明書 ●P124) | サブアドレスが指定されていない着信を受け取るかどうかを設定します。 | 着信する 着信しない |
| グローバル着信する (取扱説明書 ●P118) | INS ネット 64 のグローバル着信の利用を契約している場合、グローバル着信を利用するかどうかを設定します。 | 着信する 着信しない |

(次ページへ続きます)

1
リ
テ
ィ
の
活
用

2
パ
ソ
ク
ン
の
設
定
画
面

3
い
ろ
い
ろ
な
通
信
機
能

4
R
S
2
3
2
C
ポ
ー
ト
の
設
定

(前ページの続きです)



お知らせ

- 発信者番号通知を「通知しない」または「通知する」に設定し、i・ナンバーを「使用する」に設定した場合は、必ず発信者番号（取扱説明書 ●P106）を正しく設定してください。
- 「サブアドレスなし着信する」を選択しない場合は、サブアドレスのない着信（相手が契約者回線番号、i・ナンバー電話番号または追加番号のみで発信）は受けられなくなります。



お願い

- 発信者番号を正しく設定しない場合、相手に発信者番号（取扱説明書 ●P106）が正しく通知されません。また、INS ネット 64 サービスが利用できない場合がありますので、発信者番号を正しく設定してください。

■ BOD 機能

データポート設定

データポート(RS-232Cポート・USBポート)に接続したパソコンでの通信をより便利にするための設定です。

発信・着信 | **BOD機能** | CTT機能 | その他

リソースBOD
[使用しない]

スループットBOD
[使用しない]

リンク追加
算出時間 30 秒 (10~60)
しきい値 70 % (60~90)

リンク削除
算出時間 10 秒 (10~60)
しきい値 20 % (10~40)

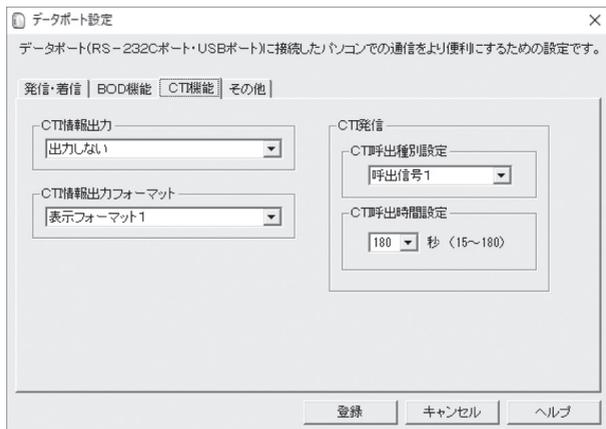
登録 キャンセル ヘルプ

※下線_は、お買い求め時の設定です。

| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|------------------|--|--|
| リソース BOD (P30) | リソース BOD を利用するとき、利用するタイミングを選択します。 | 使用しない 発信/着信時に使用する 発信時に使用する 着信時に使用する |
| スループット BOD (P31) | スループット BOD を利用するかどうかを選択します。スループット BOD で BACP を利用する場合は、「使用する (BACP)」を選択します。 | 使用しない 使用する 使用する (BACP) |
| リンク追加 算出時間 (P31) | スループット BOD を利用するときのリンク追加算出時間を指定します。 | 10 ~ 60 (秒) (お買い求め時: 30 秒) |
| リンク追加 しきい値 (P31) | スループット BOD を利用するときのリンク追加しきい値を指定します。 | 60 ~ 90 (%) (お買い求め時: 70 %) |
| リンク削除 算出時間 (P31) | スループット BOD を利用するときのリンク削除算出時間を指定します。 | 10 ~ 60 (秒) (お買い求め時: 10 秒) |
| リンク削除 しきい値 (P31) | スループット BOD を利用するときのリンク削除しきい値を指定します。 | 10 ~ 40 (%) (お買い求め時: 20 %) |

データポート設定画面

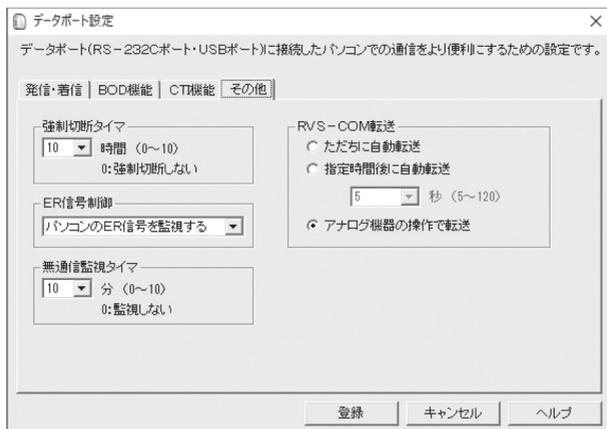
■ CTI 機能



※下線_は、お買い求め時の設定です。

| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|-----------------------|--|--|
| CTI 情報出力 (●P33) | アナログポートに着信したとき、相手の発信者番号または非通知理由、着信した番号を RS-232C ポートまたは USB ポートに出力するかどうかを設定します。 | 出力しない TEL1 への着信を出力する TEL2 への着信を出力する TEL1 または TEL2 への着信を出力する |
| CTI 情報出力フォーマット (●P33) | CTI 情報出力フォーマットを設定します。「表示フォーマット 1」に設定した場合は、転送元番号、ポート番号は表示されません。 | 表示フォーマット 1 表示フォーマット 2 |
| CTI 呼出種別設定 (●P35) | CTI 発信でアナログ通信機器を呼び出すときの呼出音を選択します。呼出音を鳴らさないときは、「送出しない」を選択します。「送出しない」を選択しても、「CTI 呼出時間設定」で指定した時間内は CTI 発信することができます。 | 送出しない 呼出信号 1 「ブルルル、ブルルル…」 呼出信号 2 「ブルブル、ブルブル…」 |
| CTI 呼出時間設定 (●P35) | CTI 発信でアナログ通信機器を呼び出す時間を指定します。 | 15 ~ 180 (秒) (お買い求め時：180 秒) |

■ その他



※下線__は、お買い求め時の設定です。

| 設定項目 | 説明 | 設定内容 |
|-------------------|--|--|
| 強制切断タイマ (●P28) | データ通信を開始してから強制的に切断するまでの時間を指定します。「0」にすると強制切断は行われません。 | 0～10（時間）（お買い求め時：10時間） |
| ER 信号制御 (●P29) | ER 信号がないパソコンをお使いの場合は、「常時 ON」を選択します。 | パソコンの ER 信号を監視する 常時 ON |
| 無通信監視タイマ (●P28) | データの送受信がなくなってから自動的に切断するまでの時間を指定します。「0」にすると自動切断は行われません。 | 0～10（分）（お買い求め時：10分） |
| RVS-COM 転送 (●P39) | RVS-COM ソフトウェアをご利用の場合、アナログポートへの着信を RS-232C ポートへ転送する方法を指定します。 | ただちに自動転送 指定時間後に自動転送 5～120(秒) <u>アナログ機器の操作で転送</u> |

1
設定ユーティリティの活用

2
パソコンでの設定画面

3
いろいろな通信機能

4
RS-232C ポートの設定

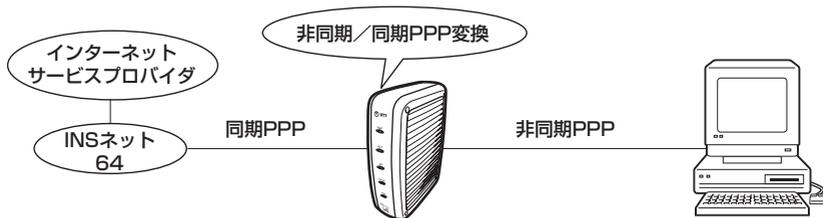
利用できる通信モード

本商品は、インターネットサービスプロバイダに非同期／同期 PPP 変換、または 128K マルチリンク PPP の通信モードで接続できます。

通信モードは、イーージーウィザードの「インターネット接続の設定」で設定したり、付属の CD-ROM からパソコンにモデム定義ファイルをインストールすることにより設定することができます。

非同期／同期 PPP 変換

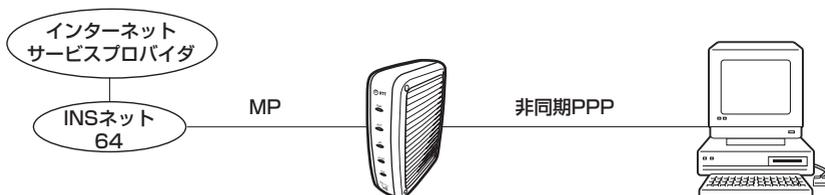
パソコンからの非同期 PPP (Point to Point Protocol) データを同期 PPP データに変換して通信するモードです。また、この逆の動作も行います。インターネットの同期 64 kbit/s の接続サービスを利用するときの通信モードです。



128K マルチリンク PPP

マルチリンクプロトコル (MP) 方式により、INS ネット 64 の 2 本の B チャンネルを使って 128 kbit/s で通信するモードです。インターネットサービスプロバイダが 128K マルチリンク PPP に対応したアクセスポイントを持つ場合に利用できます。

128K マルチリンク PPP は、発信専用の機能です。



自動応答

INS ネット 64 からの着信には、自動応答します。128K マルチリンク PPP で着信した場合は、B チャネル 1 本のみ自動応答します。



ワンポイント

- 128K マルチリンク PPP で接続しているときは
 - 本商品の ACT ランプが赤く点灯します。
 - アナログポートでの発信、着信はできません。
- 128K マルチリンク PPP の通信料金は
2本のBチャネルを使用するので、非同期/同期 PPP 変換で1本のBチャネルを使用しているときの2倍の通信料金がかかります。
- 使用するチャネル数を自動的に変更するには (BOD 機能)
128K マルチリンク PPP 通信でデータ通信を行っているとき、アナログ通信機器の発着信または通信データ量によって、使用するチャネル数を自動的に変更することができます。(▶P30)

お願い

- RS-232C ポートで通信する場合、128K マルチリンク PPP では本商品とパソコン間の通信速度は 230.4 kbit/s で使用することをおすすめします。
115.2 kbit/s で使用される場合は、十分な通信速度が出ない場合があります。

通信を自動的に切断するには (無通信監視／強制切断)

無通信状態が続いたときに自動切断したり、一定時間が経過すると強制的に切断したりすることができます。

無通信監視

通信相手とデータのやりとりがない状態が続いたとき、通信を自動切断することができます。お買い求め時は 10 分で切断するように設定されています。

インターネットサービスプロバイダによっては、監視パケットなどを定期的に発信する場合があります。この場合は自動切断されませんので、必ずパソコンから切断操作を行うか、強制切断機能をご利用ください。

● 必要な設定

自動切断するまでの時間を変更する場合は、無通信監視タイマの時間を変更します。無通信監視を行わない場合は、無通信監視タイマを「0」に設定します。

| 機能 | PCで設定 (P25) | 設定内容 |
|----------|-----------------|----------------------------------|
| 無通信監視タイマ | データポート設定画面「その他」 | 自動切断するまでの時間を 0 ~ 10 (分) の範囲で設定する |

強制切断

通信時間が設定した時間を超えたとき、強制的に切断することができます。お買い求め時は 10 時間で切断するように設定されています。

インターネットサービスプロバイダが監視パケットなどを定期的に発信するため、無通信監視タイマを利用できない場合でも、うっかりした切断忘れを防止できます。

● 必要な設定

強制切断するまでの時間を変更する場合は、強制切断タイマの時間を変更します。強制切断を行わない場合は、強制切断タイマを「0」に設定します。

| 機能 | PCで設定 (P25) | 設定内容 |
|---------|-----------------|-----------------------------------|
| 強制切断タイマ | データポート設定画面「その他」 | 強制切断するまでの時間を 0 ~ 10 (時間) の範囲で設定する |



お知らせ

- 一般的に、通信ソフトウェアでは、ER 信号を使った切断、AT コマンドによる切断 (+++, ATH) の 2 つで切断します。
ソフトウェアの異常で画面上は切断されていても、AT コマンドが送出されず、実際は切断できていない場合もあります。通信費用の節約のためにも強制切断タイマを設定しておくことをお勧めします。

ER 信号を制御するには

ER 信号は、RS-232C ポートまたは USB ポートに接続したパソコンが動作準備できているかどうかを本商品に知らせる信号です。ER 信号のないパソコンをご使用になる場合は、パソコンの ER 信号を常に ON とみなすように設定する必要があります。

● 必要な設定

ER 信号のないパソコンをご使用になる場合は、ER 信号を「常時 ON」に設定します。お買い求め時は、「パソコンの ER 信号を監視する」に設定されています。

| 機能 | PCで設定 (P25) | 設定内容 |
|---------|---------------------|-----------------------------------|
| ER 信号制御 | データポート設定画面 「その他」 | ER 信号のないパソコンをお使いの場合は、「常時 ON」を選択する |

1

設定ユーティ
リティの活用

2

パソコンでの
設定画面

3

いろいろな
通信機能

4

RS232C
ポートの設定

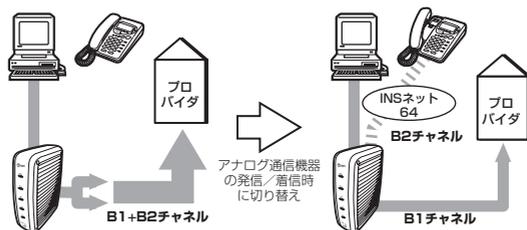
BOD 機能を利用するには

BOD (Bandwidth On Demand) とは、128K マルチリンク PPP (MP) でデータ通信を行っているとき、使用するチャンネルの数を自動的に変更する機能です。アナログ通信機器の発着信によって変更する「リソース BOD」、通信データ量によって変更する「スルーブット BOD」の 2 つの方式があります。

リソース BOD

リソース BOD を設定すると、128K マルチリンク PPP (MP) でデータ通信を行っているとき、アナログポートに接続した電話機やファクスに発着信があると、データ通信の B チャンネルを 1 本削除して電話機やファクスが使用できるようになります。

電話機やファクスの使用が終わると、B チャンネルを 1 本追加して 128K マルチリンク PPP (MP) 通信に戻ります。



アナログ通信機器を使用していないときは、2本のBチャンネルを使用する
アナログ通信機器の発信時/着信時に、1本のBチャンネルに切り替える

● 必要な契約

INS ネット 64 の契約で「通信中着信通知サービス」の利用を選択する必要があります。

● 必要な設定

リソース BOD の設定で、リソース BOD をいつ利用するかを選択します。

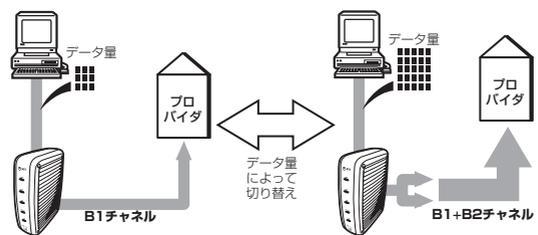
| 機能 | PCで設定 (←P23) | 設定内容 |
|----------|------------------------|--|
| リソース BOD | データポート設定画面 「BOD 機能」 | リソース BOD を利用する場合は、次の中から利用するタイミングを選択する 「発信/着信時に使用する」：アナログ通信機器からの発信時、およびアナログ通信機器への着信時に利用する 「発信時に使用する」：アナログ通信機器からの発信時に利用する 「着信時に使用する」：アナログ通信機器への着信時に利用する |

🌀 お知らせ

- プロバイダの混雑状況によっては、アナログ通信機器の使用が終わったあとに B チャンネルを追加できないことがあります。ACT (Active) ランプの状態を確認できます。このときは、ハンドセットを取りあげて置く操作をすると、もう一度 B チャンネルの追加を試みます。
- B チャンネルの追加と電話をかけるタイミングが重なったときには、話中音が聞こえることがあります。このときは、再度電話をかけ直してください。
- リソース BOD とスルーブット BOD の両方を利用するときは、アナログ通信機器の使用が終わっても RS-232C ポートまたは USB ポートの通信データ量がしきい値以上にならないと B チャンネルを追加しません。
- リソース BOD は、S/T ユニット (オプション) の S/T 端子に接続した INS ネット 64 用通信機器では利用できません。

スループットBOD

スループットBODを設定すると、通信データ量が少ないときには1本のBチャンネルを使用し、多いときは2本のBチャンネルを使用して通信を行うことができます。



データ量が少ないときは、1本のBチャンネルを使用する
データ量が多いときは、2本のBチャンネルを使用する

●必要な設定

スループットBODを「使用する」または「使用する (BACP)」に設定します。BACPに対応したインターネットサービスプロバイダをご利用の場合は、スループットBODを「使用する (BACP)」に設定します。

リンク追加算出時間、リンク追加しきい値、リンク削除算出時間、リンク削除しきい値で、Bチャンネルを追加／削除するときの算出時間とデータ量を設定します。

「リンク追加算出時間」内の通信データ量が「リンク追加しきい値」より大きくなると、Bチャンネル2本で通信します。また、「リンク削除算出時間」内の通信データ量が「リンク削除しきい値」より小さくなると、Bチャンネル1本で通信します。

| 機能 | PCで設定 (←P23) | 設定内容 |
|------------|-------------------|---|
| スループットBOD | データポート設定画面「BOD機能」 | スループットBODを利用する場合は、次のどちらかを選択する 「使用する」：スループットBODを使用する 「使用する (BACP)」：スループットBODでBACPを利用する |
| リンク追加 算出時間 | データポート設定画面「BOD機能」 | 10～60 (秒) の範囲で設定する (お買い求め時：30 秒) |
| リンク追加 しきい値 | データポート設定画面「BOD機能」 | 60～90 (%) の範囲で設定する (お買い求め時：70 %) |
| リンク削除 算出時間 | データポート設定画面「BOD機能」 | 10～60 (秒) の範囲で設定する (お買い求め時：10 秒) |
| リンク削除 しきい値 | データポート設定画面「BOD機能」 | 10～40 (%) の範囲で設定する (お買い求め時：20 %) |

BOD 機能を利用するには

(前ページの続きです)

■ 設定例

以下のように設定する場合

- 40 秒間の通信データ量の平均値が、51.2 kbit/s (64 kbit/s の 80 %) より大きくなったとき、B チャンネル 2 本で通信する
- 20 秒間の通信データ量の平均値が、6.4 kbit/s (64 kbit/s の 10 %) より小さくなったとき、B チャンネル 1 本で通信する

| 機 能 | 設定内容 |
|------------|-----------------------------|
| スループット BOD | 「使用する」または「使用する (BACP)」を選択する |
| リンク追加 算出時間 | 40 (秒) に設定する |
| リンク追加 しきい値 | 80 (%) に設定する |
| リンク削除 算出時間 | 20 (秒) に設定する |
| リンク削除 しきい値 | 10 (%) に設定する |



ワンポイント

● BACP とは

BACP (Bandwidth Allocation Control Protocol) とは、B チャンネルの追加、削除を行っていかどうかをインターネットサービスプロバイダに問い合わせる方式です。



お知らせ

- しきい値は、64 kbit/s (B チャンネル 1 本分) を 100 %として計算しています。
- プロバイダの状況、データ通信の利用状況 (Web ページを見る、ダウンロードするなど)、アクセスポイントの混雑状況などによっては、B チャンネルの追加と削除が頻繁に発生して、料金が高くなる場合があります。
- 本商品はプロバイダからの B チャンネル削除、追加要求があると拒否するように設計されています。プロバイダから強制的に B チャンネルを追加、削除された場合には、通信エラーとなる可能性があります。ただし、一般的なプロバイダでは、このような要求はありませんので問題ありません。
- B チャンネルを追加、削除した直後はそれ以前の通信データ量を 200 %または 0 %として計算するため、通信データ量によっては「リンク追加算出時間」または「リンク削除算出時間」を経過する前に B チャンネルの追加、削除が行われる場合があります。

CTI 機能を利用するには

CTI (Computer Telephony Integration) とは、アナログポートへの着信時に通知される情報をパソコンで処理するなど、電話とパソコンを統合的に利用する機能です。CTI 情報出力と CTI 発信の 2 つの機能があります。

CTI を実現するには、別途 INS メイト V30Slim 対応のアプリケーションソフトのご購入が必要です。

CTI 情報出力

アナログポートへ着信したとき、発信者番号、着信した番号などの情報を RS-232C ポートまたは USB ポートに出力することができます。電話をかけてきた方の電話番号の表示や管理ができます。RS-232C ポートまたは USB ポートが空いているときに限り、1 回のみ出力します。



● 必要な契約

一般の電話回線からの着信時に、相手先の電話番号を RS-232C ポートまたは USB ポートに出力するには、INS ナンバー・ディスプレイの契約 (有料) が必要です。

● 必要な設定

どのアナログポートへ着信したかの情報を RS-232C ポートまたは USB ポートに出力するか、CTI 情報出力を設定する必要があります。出力する形式を選択する場合は、CTI 情報出力フォーマットを設定します。

| 機能 | PCで設定 (←P24) | 設定内容 |
|---------------|------------------------|--|
| CTI 情報出力 | データポート設定画面 「CTI 機能」 | 次の中から、情報を出力するアナログポートを選択する 「TEL1 への着信を出力する」 「TEL2 への着信を出力する」 「TEL1 または TEL2 への着信を出力する」 |
| CTI情報出力フォーマット | データポート設定画面 「CTI 機能」 | 「表示フォーマット 1」「表示フォーマット 2」のいずれかを選択する ※表示フォーマット 1 の場合、転送元番号、ポート番号は表示されません |

■ 表示フォーマット 1

● 出力するデータ形式

| | | | | | | | | | | |
|----|----|--------------|-------|---|---------|-----|---|---------|----|----|
| CR | LF | RING_ANALOG_ | 発信者番号 | / | 発サブアドレス | 着番号 | / | 着サブアドレス | CR | LF |
|----|----|--------------|-------|---|---------|-----|---|---------|----|----|

CR : 0Dh 発信番号 : 最大 32 桁
 LF : 0Ah 発サブアドレス : 最大 19 桁
 _ (スペース) : 20h 着番号 : 最大 32 桁
 / (スラッシュ) : 2Fh 着サブアドレス : 最大 19 桁

(次ページへ続きます)

1
設定ユーティリティの活用

2
パソコンでの設定画面

3
いろいろな通信機能

4
RS-232Cポートの設定

CTI 機能を利用するには

(前ページの続きです)

● 非通知理由を受信したとき

発番号、発サブアドレスの代わりに、次のような非通知理由が出力されます。

| CR | LF | RING_ANALOG_非通知理由_着番号/着サブアドレス | CR | LF |
|----|----|-------------------------------|----|----|
|----|----|-------------------------------|----|----|

非通知理由P (50h) : ユーザ拒否
 O (4Fh) : サービス提供不可
 C (43h) : 公衆電話発信
 S (53h) : サービス競合

■ 表示フォーマット 2

● 出力するデータ形式

| CR | LF | RING_ANALOG_発番号/発サブアドレス_着番号/着サブアドレス;転送元番号_ポート番号 | CR | LF |
|----|----|---|----|----|
|----|----|---|----|----|

CR : ODh 発番号 : 最大 32 桁 転送元番号 : 最大 20 桁
 LF : OAh 発サブアドレス : 最大 19 桁 ポート番号 : TEL1
 _ (スペース) : 20h 着番号 : 最大 32 桁 TEL2
 着サブアドレス : 最大 19 桁 TEL1 2
 / (スラッシュ) : 2Fh

● 非通知理由を受信したとき

発番号、発サブアドレスの代わりに、次のような非通知理由が出力されます。

| CR | LF | RING_ANALOG_非通知理由_着番号/着サブアドレス;転送元番号_ポート番号 | CR | LF |
|----|----|---|----|----|
|----|----|---|----|----|

非通知理由 P (50h) : ユーザ拒否 転送元番号 : 最大 20 桁
 O (4Fh) : サービス提供不可 ポート番号 : TEL1
 C (43h) : 公衆電話発信 TEL2
 S (53h) : サービス競合 TEL1 2



ワンポイント

● 出力する着番号は

- ・ダイヤルインを契約していない場合、およびグローバル着信でダイヤルインを契約している場合
 モデムダイヤルイン用契約者回線番号に設定した電話番号がRS-232CポートまたはUSBポートに出力されます。
- ・i・ナンバーをご利用の場合
 i・ナンバーを「使用する」に設定し、i・ナンバー電話番号を登録すると、その番号が出力されます。i・ナンバー電話番号を登録しないと出力されません。



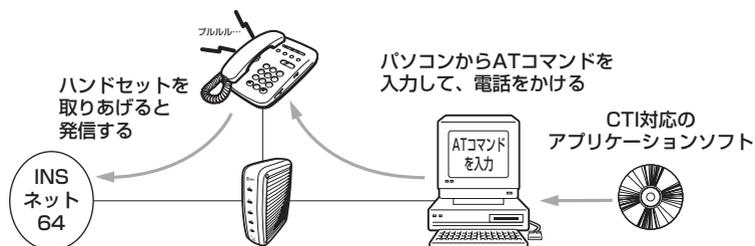
お知らせ

- RS-232Cポートへの出力時、CI信号は変化しません。
- 設定ユーティリティで本機能を行うよう設定したあと、設定ユーティリティを終了する前にアナログポートへ着信があると、「ATコマンドエラー」と表示される場合があります。
- パソコンを最初に接続したときや、パソコンの速度を変更したときは、ターミナルソフトで必ず「AT」を入力してください。「AT」を入力しない場合、文字化けなど正しく動作しないことがあります。
- この「参考情報」では、CTI機能を利用するための出力フォーマットを公表しておりますが、これらはお客様の用意されるソフトウェアの動作を保証するものではありません。

CTI 発信

RS-232C ポートまたは USB ポートに接続したパソコンから AT コマンドを入力して、アナログポートに接続した電話機から発信することができます。

CTI 発信は、同時に 2 つのアナログポートで行うことができます。



● 必要な設定

アナログ通信機器の着信音を鳴らさないようにしたり、着信音の音を変えるには、CTI 呼出種別設定を変更します。お買い求め時は、「呼出信号 1」に設定されています。

アナログ通信機器を呼び出すまでの時間を変えるには、CTI 呼出時間設定を変更します。お買い求め時は、180 秒に設定されています。

| 機能 | PCで設定 (P24) | 設定内容 |
|------------|--------------------|---|
| CTI 呼出種別設定 | データポート設定画面「CTI 機能」 | 次の中から、アナログ通信機器の着信音を選択する 「送ししない」：着信音を鳴らさない 「呼出信号 1」：「ブルブル、ブルブル…」 (お買い求め時の設定) 「呼出信号 2」：「ブルブル、ブルブル…」 |
| CTI 呼出時間設定 | データポート設定画面「CTI 機能」 | 15 ~ 180 (秒) の範囲で設定する |

● CTI 発信の手順

- ① パソコンから AT コマンドを入力する。
AT コマンドで指定したアナログポートに接続されているアナログ通信機器の着信音が 180 秒間 (CTI 呼出時間設定の設定内容) 鳴ります。
- ② 着信音が鳴っている間に、アナログ通信機器のハンドセットを取りあげる。
AT コマンドで入力した電話番号で、本商品が自動的に発信します。着信音が鳴っている間にハンドセットを取りあげないと、呼び出しを中止します。
すでに 2 本の B チャネルを使用している場合は、ハンドセットを取りあげると、話中音が聞こえます。
- ③ 相手が出たら、お話しする。

CTI 機能を利用するには

(前ページの続きです)

● CTI 発信の AT コマンド

| | | |
|------|----------------------------------|----|
| AT!D | アナログポート番号；相手の方の電話番号（着番号／着サブアドレス） | CR |
|------|----------------------------------|----|

アナログポート番号：1 または 2 着サブアドレス：最大 19 桁
 ;(セミコロン)：区切り子 / (スラッシュ)：着番号と着サブアドレスの区切り子
 着番号：最大 32 桁

● CTI 発信の取り消し

アナログ通信機器を呼び出ししている間に、次の AT コマンドで発信を取り消すことができます。

| | | |
|------|-----------|----|
| AT!H | アナログポート番号 | CR |
|------|-----------|----|



ワンポイント

- アナログ通信機器を呼び出し中に電話がかかってきたときは
電話をかけてきた方には、話中音が聞こえます。



お知らせ

- CTI 発信後、内線転送を行った場合、パソコンへ通知するアナログポート番号は CTI 発信時のアナログポート番号です。
- CTI 発信後に AT!D、AT!H、および設定系コマンド (ATZ,ATZ98 を含む) 以外の AT コマンドを入力した場合は、パソコンへ ERROR を通知します。
- ATD¥ による CTI 発信はできません。
- CTI 発信中に ER 信号が OFF になった場合は、ER 信号制御の設定により下記の動作になります。

| ER 信号制御の設定 | 設定時の動作 |
|------------------|--|
| パソコンの ER 信号を監視する | アナログ通信機器の呼び出しを停止する。その後のリザルトコードはパソコンへ通知しない。 |
| 常時 ON | CTI 発信動作を継続する。 |

- パソコンを最初に接続したときや、パソコンの速度を変更したときは、必ず「AT」を入力してください。「AT」を入力しない場合、文字化けなど正しく動作しないことがあります。
- アナログ通信機器によっては、CTI 呼出種別設定 (←P35) の呼出信号 2 の着信音が正常に鳴らない機種があります。
- この「参考情報」では、CTI 発信を利用するための出力フォーマットを公表しておりますが、これらはお客様の用意されるソフトウェアの動作を保証するものではありません。

● リザルトコードフォーマットと通知条件

• CONNECT フォーマット

| | | | | | |
|----|----|-----------|-----------|----|----|
| CR | LF | CONNECT_T | アナログポート番号 | CR | LF |
|----|----|-----------|-----------|----|----|

CR : 0Dh

LF : 0Ah

_ (スペース) : 20h

アナログポート番号 : 1 または 2

通知条件

- ① 相手応答時

• OK フォーマット

| | | | | | |
|----|----|------|-----------|----|----|
| CR | LF | OK_T | アナログポート番号 | CR | LF |
|----|----|------|-----------|----|----|

通知条件

- ① CTI 発信による通話中ではないアナログポートを指定して AT ! H コマンドを入力したとき

• NO CARRIER フォーマット

| | | | | | |
|----|----|--------------|-----------|----|----|
| CR | LF | NO_CARRIER_T | アナログポート番号 | CR | LF |
|----|----|--------------|-----------|----|----|

通知条件

- ① 終話時および相手話中以外で接続不可時
- ② CTI 発信後アナログ通信機器を呼び出し中に AT ! H コマンドで発信を取り消したとき
- ③ CTI 発信後アナログ通信機器を呼び出し、ハンドセットを取りあげたときに、すでに B チャネル 2 本を使用していた場合
- ④ CTI 発信で指定したアナログポートに発信規制が設定されている場合
- ⑤ CTI 発信で指定したアナログポートの接続機器設定が「接続しない」に設定されている場合
- ⑥ 回線異常状態での CTI 発信時

• BUSY フォーマット

| | | | | | |
|----|----|--------|-----------|----|----|
| CR | LF | BUSY_T | アナログポート番号 | CR | LF |
|----|----|--------|-----------|----|----|

通知条件

- ① 相手話中時

• ERROR フォーマット

| | | | | | |
|----|----|---------|-----------|----|----|
| CR | LF | ERROR_T | アナログポート番号 | CR | LF |
|----|----|---------|-----------|----|----|

通知条件

- ① 着番号、着サブアドレスの最大桁数を超えた番号で CTI 発信した場合
- ② 使用中のアナログポートに CTI 発信した場合
- ③ アナログポート番号を指定したあと、着番号を指定しないで CTI 発信した場合
- ④ CTI 発信から CTI 呼出時間として設定されている時間内にアナログ通信機器のハンドセットを取りあげない場合
- ⑤ データ通信のオンラインコマンドモードで CTI 発信した場合
- ⑥ データ通信のオンラインコマンドモードで CTI 発信を取り消した場合

| | | | | |
|----|----|-------|----|----|
| CR | LF | ERROR | CR | LF |
|----|----|-------|----|----|

通知条件

- ① アナログポート番号と着番号を指定しないで CTI 発信した場合
- ② アナログポート番号を指定しないで CTI 発信した場合および CTI 発信を取り消した場合
- ③ アナログポート番号を 1 または 2 以外で CTI 発信した場合および CTI 発信を取り消した場合

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

- ④ CTI 発信した通話が終了する前にデータ通信で発信した場合
- ⑤ AT!H コマンドのあとに他の AT コマンドを続けて入力した場合

• ER OFF フォーマット

| | | | | | |
|----|----|----------|-----------|----|----|
| CR | LF | ER_OFF_T | アナログポート番号 | CR | LF |
|----|----|----------|-----------|----|----|

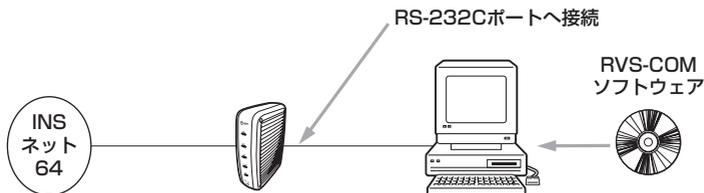
通知条件

- ① ER 信号が OFF で CTI 発信を行った場合

RVS-COM 機能を利用するには

本商品の RS-232C ポートでは、RVS-COM を使用したファクスの送受信、電話機能を利用できます。RS-232C ポートに接続したパソコンから、ファクスの送受信などが行えます。

本機能は、RS-232C ポート専用です。USB ポートではご利用になれません。



● 必要な設定

RVS-COM 転送の設定が必要です。

お買い求め時は、「アナログ機器の操作で転送」に設定されています。

| 機能 | PCで設定 (P25) | 設定内容 |
|------------|---------------------|--|
| RVS-COM 転送 | データポート設定画面 「その他」 | 次のいずれかを選択する 「ただちに自動転送」：アナログ通信機器の着信音を鳴らさず、ただちに転送する 「指定時間後に自動転送」：設定した時間（5～120 秒）後に転送する 「アナログ機器の操作で転送」：アナログ通信機器をオフフックしたあと、フッキングし、 (*) (*) (3) を押して転送する（お買い求め時の設定） 「指定時間後に自動転送」を選択した場合は、5～120（秒）の範囲で時間を設定する |

RVS-COM 転送と RVS-COM への移行時間は、電話機から設定することもできます。

| 機能 | TELで設定 (取扱説明書 P142) | 設定内容 |
|---------------|---------------------|---|
| RVS-COM 転送 | 機能番号：81 | 次のどちらかを選択する 「アナログ機器の操作で転送／指定時間後に自動転送」：アナログ通信機器をオフフックしたあと、フッキングし (*) (*) (3) を押して転送する。または、指定時間後に自動的に転送する（お買い求め時の設定） 「ただちに自動転送」：アナログ通信機器の着信音を鳴らさず、ただちに転送する |
| RVS-COMへの移行時間 | 機能番号：82 | 指定時間後に自動転送する場合は、RVS-COM 転送の設定で「アナログ機器の操作で転送／指定時間後に自動転送」を選択し、転送までの時間を5～120（秒）の範囲で設定する （お買い求め時の設定：「無応答時転送しない」） |

(次ページへ続きます)

1 設定メニューの活用

2 パソコンでの設定画面

3 いろいろな通信機能

4 RS-232C ポートの設定

(前ページの続きです)



ワンポイント

● RVS-COM とは

パソコンから直接ファクス送信などができる通信ソフトウェアです。本商品には、RVS-COM ソフトウェアは添付されていないので、別途ご用意ください。



お知らせ

- RVS-COM についての情報や使用方法については、メガソフト株式会社のホームページをご覧ください。
(RVS-COM 製品の販売およびサポートは、平成 17 年 8 月をもって終了しています。)

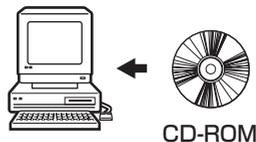
イーザーウィザードで RS-232C ポートを使うには

本商品の RS-232C ポートとパソコンの RS-232C ポート（シリアルポート）を接続して使うために、イーザーウィザードを使って、モデム定義ファイルと RS-232C ポート用ドライバーをインストールします。

操作を始める前に、本商品とパソコンが接続されていないことを確認してください。画面は Windows® 10 の例です。

1 本商品とパソコンが接続されていないことを確認する。

2 INS メイト V30Slim 専用 CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットする。



3 Windows® 10 の場合、CD-ROM 中の [UTILITY] フォルダにある [WIN_10] フォルダを開き、[setup.exe] を実行する。

Windows® 8.1、Windows® 7 の場合、[UTILITY] フォルダにある [WIN_8.1_7] フォルダを開き、[setup.exe] を実行する。

1
設定
ユーティ
リティの
活用2
パソコン
での
設定
画面3
いろいろ
な
通信
機能4
RS-232C
ポート
設定
画面

(次ページへ続きます)

お知らせ

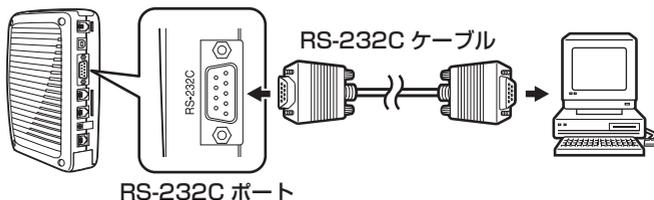
- ご使用前に必ず「専用 CD-ROM の使い方」および CD-ROM に収録されている「readme.txt」を開いてお読みください。
- このページの内容は一例を示しています。

お願い

- イーザーウィザードを起動する前に、他のアプリケーションをすべて終了させてください。マウスポインタを自動的に移動させるソフトなど、システムに常駐しているもの（[スタートアップ] グループに登録してあるもの）も終了させてください。他のアプリケーションを起動したままイーザーウィザードを実行すると、システムが応答しなくなる可能性があります。

(前ページの続きです)

4 本商品とパソコンを RS-232C ケーブルで接続する。



5 [次へ>] をクリックする。



ワンポイント

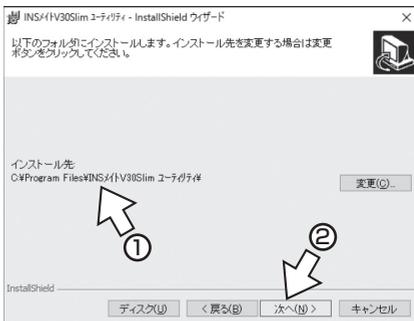
- イーザーウィザードを利用できないときは
イーザーウィザードを使わない方法で必要なソフトウェアをインストールしてください。(☛「手動設定編」)

STOP お願い

- ケーブルの接続は、パソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- RS-232C ケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。
- RS-232C ポートが 25 ピンの場合、またはノートパソコンなどで特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。
- RS-232C ケーブルを接続したままパソコンを起動すると、Windows® のプラグアンドプレイ機能が動き RS-232C ポート用ドライバーが正常にインストールされない場合があります。このような場合はいったんドライバーを削除してから (取扱説明書 ●P163)、正しい手順でインストールをやり直してください。
- RS-232C ポートが複数有るパソコンで、接続する RS-232C ポートを変更する場合は、いったんドライバーを削除してから (取扱説明書 ●P163)、再度インストールをしてください。

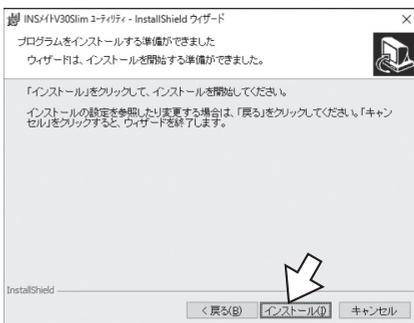
6 インストール先を確認し、[次へ>]をクリックする。

インストール先を変更する場合は [変更] をクリックしてインストール先を指定します。



7 [インストール] をクリックする。

自動的にインストールが行われます。

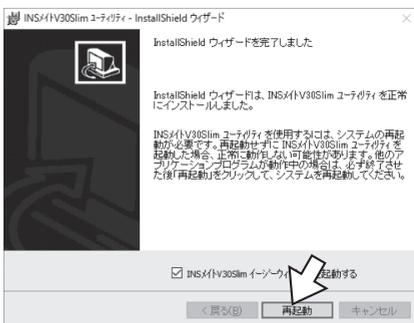


Windows® 8.1、Windows® 7の場合、初回のインストール時に Windows セキュリティ画面が表示されます。[「発行元」からのソフトウェアを常に信頼する] をチェックし、[インストール] をクリックします。2回目以降のインストール時は、この画面は表示されません。(画面は Windows® 8.1 の例です。)



8 [再起動] をクリックする。

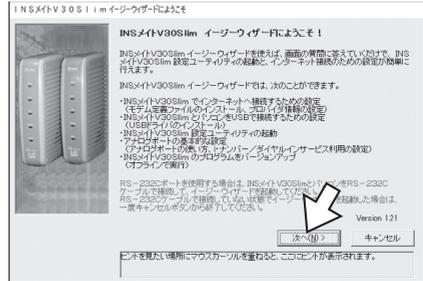
パソコンが再起動します。ここで [INS メイト V30Slim イージーウィザードを起動する] がチェックされている場合は、パソコンが再起動したのち、イージーウィザードが起動します。



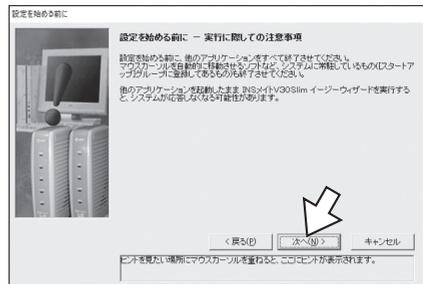
(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

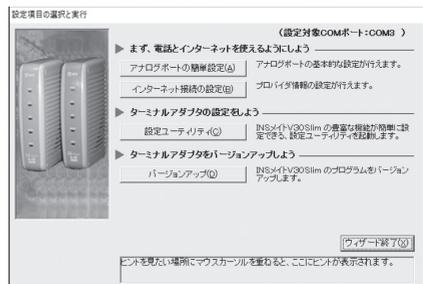
9 右の画面が表示されたら、[次へ>] をクリックする。



10 [次へ>] をクリックする。

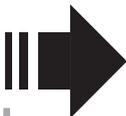
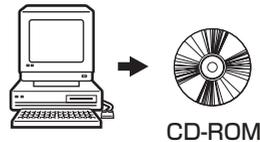


イーザーウィザードが起動し、[設定項目の選択と実行] 画面が表示されます。インストール後は、自動的に [アナログポートの簡単設定]、[インターネット接続の設定] が順に起動します。



11 CD-ROM ドライブから CD-ROM を取り出す。

インストールが完了しました。



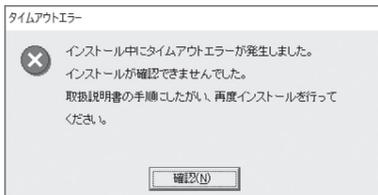
引き続き、「アナログポートの設定を行うには」(取扱説明書 P45) へ進みます。

手動設定編

- 1 手動設定について 46
- 2 USB ポート設定 47
- 3 RS-232C ポート設定 52
- 4 インターネット設定 58

イーजीウィザードが利用できないときは

イーजीウィザードによってドライバーのインストールを行っているときに、下のよう
な画面が出た場合は、イーजीウィザードが利用できなくなっています。



(画面は Windows® 10 の例です。)

その場合は、下の表でパソコンの OS と使用できるポートを確認のうえ、参照するページの手順に従って手動でインストール、インターネット接続の設定を行ってください。

| パソコンの OS | 使用できるデータポート | インストール | インターネット接続 |
|--|-------------|--------|-----------|
| <ul style="list-style-type: none"> Windows® 10 Home/Windows® 10 Pro (32 ビット版 /64 ビット版) Windows® 8.1/Window® 8.1 Pro (32 ビット版 /64 ビット版) Windows® 7 Home Premium/Windows® 7 Professional (32 ビット版 /64 ビット版) | USB ポート | ◀P47 | ◀P58 |
| | RS-232C ポート | ◀P52 | |



ワンポイント

- ご使用の OS を確認するには (取扱説明書 ▶P36)



お知らせ

- Windows® 10、Windows® 8.1、Windows® 7 ではコントロールパネルの表示モードに通常表示モード (カテゴリ表示モード) とアイコン表示モード (大きいアイコン/小さいアイコン) があります。この取扱説明書の画面は Windows® 10 の通常表示モードを前提に記述しています。
- 画面表示はお使いのパソコンにより一部異なる場合があります。

USBポートを使うには

本商品の USB ポートとパソコンの USB ポートを接続して使うには、次の手順が必要です。

付属の INS メイト V30Slim 専用 CD-ROM をご用意ください。
インストールは、管理者の権限で行う必要があります。

- 1 INS ネット 64 回線に接続する (取扱説明書 ●P29)
本商品とパソコンは指示があるまで接続しないでください。
- 2 USB ドライバーをインストールする (● 下記)

USB ドライバーをインストールする

画面は Windows® 10 の例です。

1 パソコンの電源を入れる。

Windows® が起動することを確認します。

2 Windows® 10 の場合、[スタート] ボタンをクリックし、[Windows システム ツール] - [コントロールパネル] をクリックする。

Windows® 8.1 の場合、[スタート] ボタンを右クリックし、クイックリンクメニューの [コントロールパネル] をクリックする。

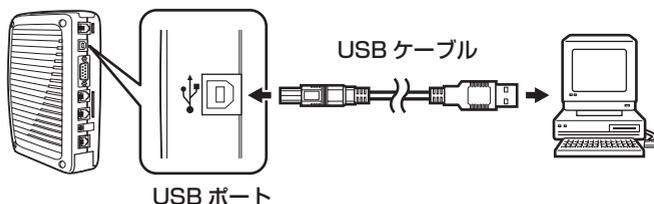
Windows® 7 の場合、[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックする。

3 コントロールパネルの [ハードウェアとサウンド] をクリックする。

4 [デバイスマネージャー] をクリックする。

「ユーザーアカウント制御」画面が表示されることがあります。

5 本商品とパソコンを USB ケーブルで接続する。



STOP お願い

- ケーブルの接続は、パソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- USB ドライバーをインストールする前に、ご使用の OS を確認してください。(取扱説明書 ●P36)

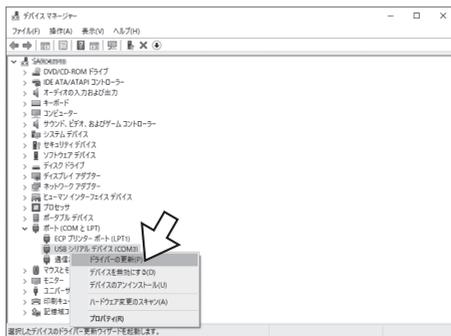
(次ページへ続きます)

USBポートを使うには

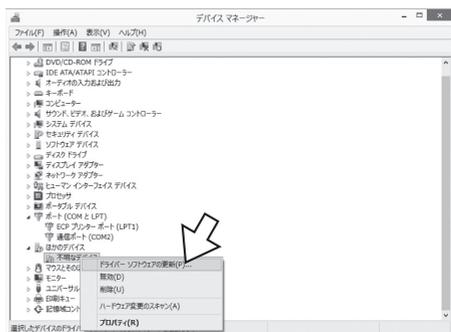
(前ページの続きです)

6 追加されたデバイスを右クリックし、[ドライバーの更新]または[ドライバーソフトウェアの更新]をクリックする。

Windows® 10の場合、[ポート (COMとLPT)]に[USBシリアルデバイス]が追加されます。



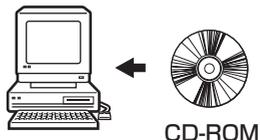
Windows® 8.1、Windows® 7の場合、[ほかのデバイス]に[不明なデバイス]が追加されます。(右図はWindows® 8.1の例です。)



7 [コンピュータを参照してドライバーソフトウェアを検索]をクリックする。



8 INS メイト V30Slim 専用 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。



9 [参照] をクリックする。



10 Windows® 10 の場合、CD-ROMの [USB] - [WIN_10] フォルダを選択し、[OK] をクリックする。
Windows® 8.1、Windows® 7 の場合、[USB] - [WIN_8.1_7] フォルダを選択し、[OK] をクリックする。



(次ページへ続きます)

USBポートを使うには

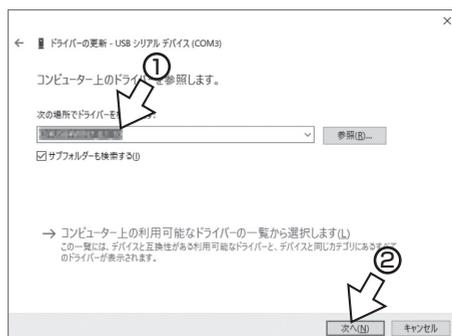
(前ページの続きです)

11 Windows® 10 の場合、[次の場所でドライバーを検索します] に [USB] - [WIN_10] が表示されていることを確認し、[次へ] をクリックする。

Windows® 8.1、Windows® 7 の場合は、[USB] - [WIN_8.1_7] が表示されていることを確認し、[次へ] をクリックする。

Windows® 8.1、Windows® 7 の場合、初回のインストール時に Windows セキュリティ画面が表示されます。[“発行元”からのソフトウェアを常に信頼する] をチェックし、[インストール] をクリックします。2 回目以降のインストール時は、この画面は表示されません。

(画面は Windows® 8.1 の例です。)

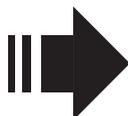
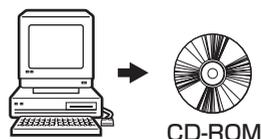


12 [閉じる] をクリックする。



13 CD-ROM ドライブから CD-ROM を取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、「インストールの確認を行う」(P51) へ進みます。

インストールの確認を行う

1 Windows® 10 の場合、[スタート] ボタンをクリックし、[Windows システム ツール] - [コントロールパネル] をクリックする。

Windows® 8.1 の場合、[スタート] ボタンを右クリックし、クイックリンクメニューの [コントロールパネル] をクリックする。

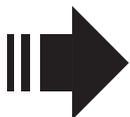
Windows® 7 の場合、[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックする。

2 コントロールパネルの [ハードウェアとサウンド] をクリックする。

3 [デバイスマネージャー] をクリックする。
「ユーザーアカウント制御」画面が表示されることがあります。

4 [モデム] に [INSMATEV30Slim USB] が表示されていることを確認し、×をクリックする。

[モデム] の下に何も表示されない場合は、左側の > アイコン (Windows® 8.1、Windows® 7 の場合は ▶ アイコン) をクリックします。



引き続き、「接続の設定をするには」(P58)へ進みます。

RS-232C ポートを使うには

本商品の RS-232C ポートとパソコンの RS-232C ポート（シリアルポート）を接続するには、次の手順が必要です。

付属の INS メイト V30Slim 専用 CD-ROM をご用意ください。

インストールは、管理者の権限で行う必要があります

1 INS ネット 64 回線に接続する（取扱説明書 ●P29）

本商品とパソコンは指示があるまで接続しないでください。

2 必要なファイルをインストールする（●下記）

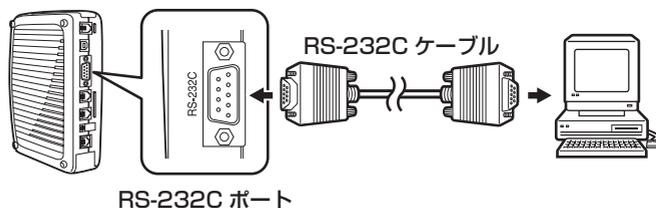
必要なファイルをインストールする

画面は Windows® 10 の例です。

1 パソコンの電源を入れる。

Windows® が起動することを確認します。

2 付属ケーブルで本商品の RS-232C ポートとパソコンの RS-232C ポートをつなぐ。



STOP お願い

- ケーブルの接続はパソコンの取扱説明書に従って正しく接続してください。
- RS-232C ケーブルを接続するときは、コネクタの方向に注意して挿入し、両端のネジを回して固定してください。
- RS-232C ポートが 25 ピンの場合、またはノートパソコンなどで特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客様でご用意ください。
- RS-232C ケーブルを接続したままパソコンを起動すると、Windows® のプラグアンドプレイ機能が動き RS-232C ポート用ドライバーが正常にインストールされない場合があります。このような場合はいったんドライバーを削除してから（取扱説明書 ●P163）、正しい手順でインストールをやり直してください。
- RS-232C ポートが複数あるパソコンで、接続する RS-232C ポートを変更する場合は、いったんドライバーを削除してから（取扱説明書 ●P163）、再度インストールをしてください。

3 Windows® 10 の場合、[スタート] ボタンをクリックし、[Windows システム ツール] - [コントロールパネル] をクリックする。

Windows® 8.1 の場合、[スタート] ボタンを右クリックし、クイックリンクメニューの [コントロールパネル] をクリックする。

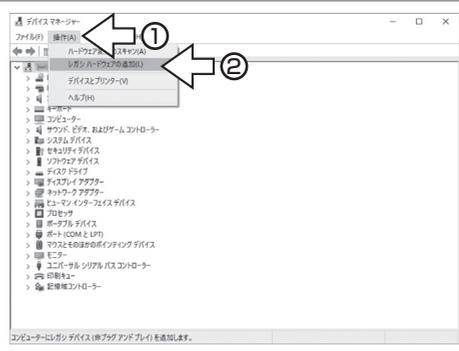
Windows® 7 の場合、[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックする。

4 コントロールパネルの [ハードウェアとサウンド] をクリックする。

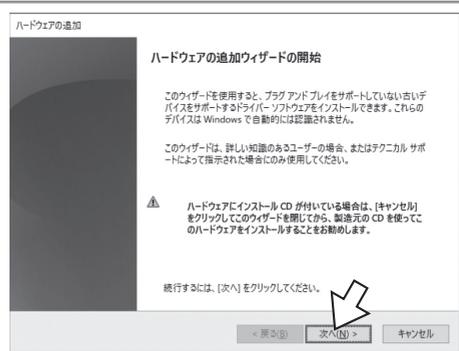
5 [デバイスマネージャー] をクリックする。
「ユーザーアカウント制御」画面が表示されることがあります。

6 [操作] メニューをクリックし、[レガシハードウェアの追加] をクリックする。

「レガシ ハードウェアの追加」が表示されない場合は、デバイス一覧から任意のデバイスを選択してから操作してください。



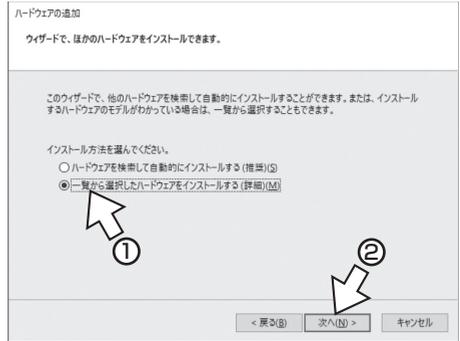
7 [次へ>] をクリックする。



(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

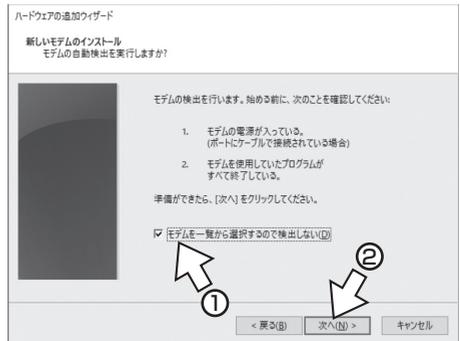
8 [一覧から選択したハードウェアをインストールする] を選択し、[次へ] をクリックする。



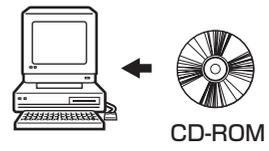
9 一覧から [モデム] を選択し、[次へ] をクリックする。



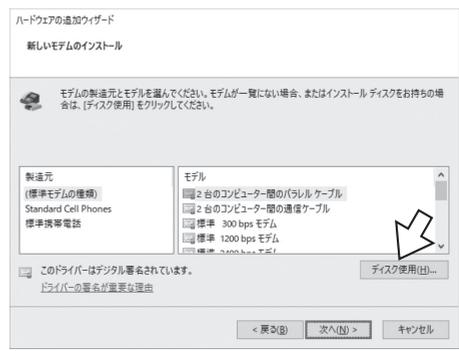
10 [モデムを一覧から選択するので検出しない] にチェックし、[次へ] をクリックする。



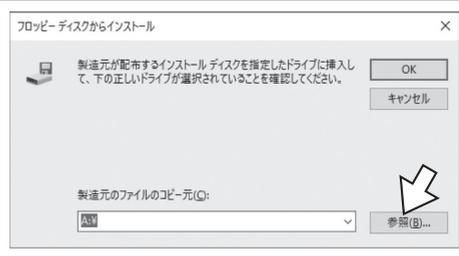
11 INS メイト V30Slim 専用 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。



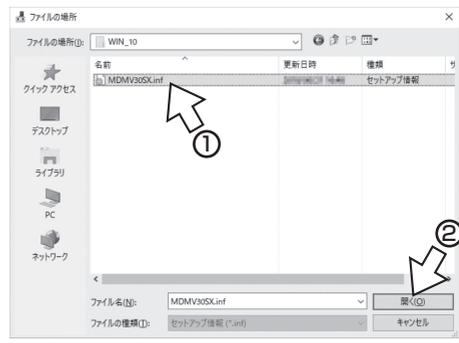
12 [ディスク使用] をクリックする。



13 [参照] をクリックする。



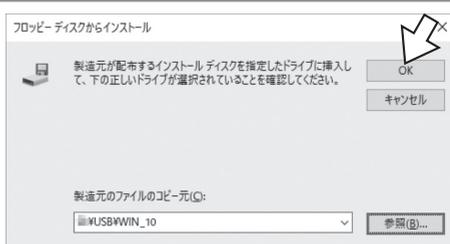
14 Windows® 10 の場合、CD-ROMの [USB] - [WIN_10] フォルダを開き、[MDMV30SX.inf] ファイルを選択し、[開く] をクリックする。
Windows® 8.1、Windows® 7 の場合、[USB] - [WIN_8.1_7] フォルダを開き、[MDMV30S8.inf] ファイルを選択し、[開く] をクリックする。



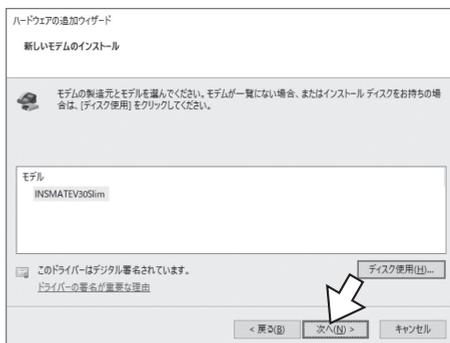
(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)

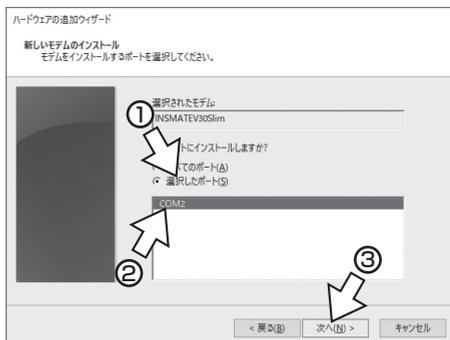
15 [OK] をクリックする。



16 [次へ] をクリックする。



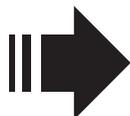
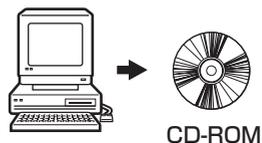
17 [選択したポート] をチェックし、設定するポートを選択し、[次へ] をクリックする。



18 [完了] をクリックする。

19 CD-ROM ドライブから CD-ROM
を取り出す。

以上でインストールは完了です。



引き続き、「接続の設定をするには」(P58)へ進みます。

接続の設定をするには

インターネットに接続するために、接続先の設定、TCP/IP の設定を行います。

接続先の設定を行う

ご利用になるインターネットサービスプロバイダのアクセスポイントに接続するための情報を設定します。プロバイダから通知されたユーザ ID、パスワード、アクセスポイントなどの情報が必要です。(画面は Windows® 10 の例です。)

1 Windows® 10 の場合、[スタート] ボタンをクリックし、[Windows システムツール] – [コントロールパネル] をクリックする。

Windows® 8.1 の場合、[スタート] ボタンを右クリックし、クイックリンクメニューの [コントロールパネル] をクリックする。

Windows® 7 の場合、[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックする。

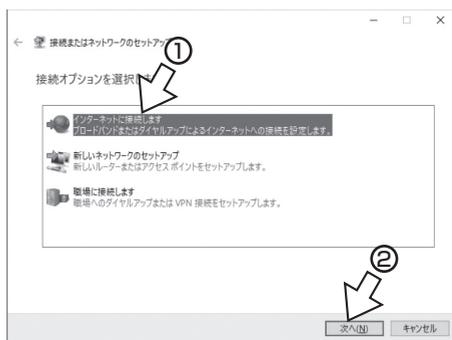
2 コントロールパネルの [ネットワークの状態とタスクの表示] をクリックする。



3 ネットワークと共有センターの [新しい接続またはネットワークのセットアップ] をクリックする。

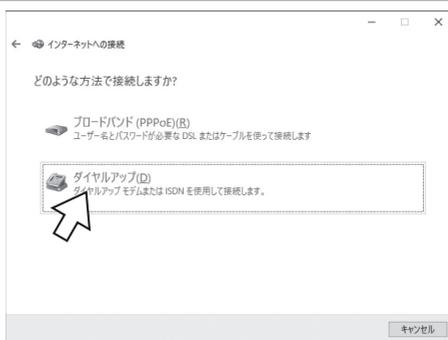


4 [インターネットに接続します] を選択し、[次へ] をクリックする。

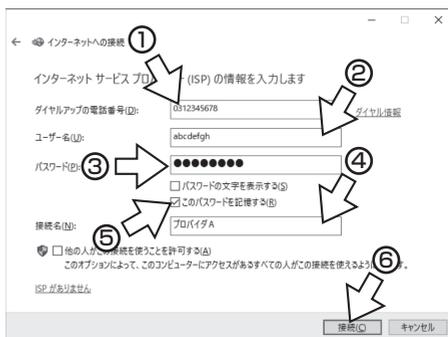


5 [ダイヤルアップ] をクリックする。

ダイヤルアップ用モデムが正しく認識されていない場合、ダイヤルアップが表示されません。ダイヤルアップ用モデムが正しくインストールされていることを確認してください。



6 [ダイヤルアップの電話番号]、[ユーザ名]、[パスワード]、[接続名] を入力し、[このパスワードを記録する] にチェックし、[接続] をクリックする。



(前ページの続きです)

7 接続に成功した場合、「接続の使用準備ができました」画面が表示されるので、[閉じる]をクリックする。



ワンポイント

●接続に失敗した場合

- ① 「接続に失敗しました」画面が表示されるので、[接続をセットアップします] をクリックする。
- ② 「インターネットへの接続を使用する準備ができました」画面が表示されるので、[閉じる] をクリックする。

TCP/IP の設定を行う

ご利用になるインターネットサービスプロバイダのサーバの情報を設定します。プロバイダから通知された DNS サーバなどの情報が必要です。

(画面は Windows® 10 の例です。)

1 Windows® 10 の場合、[スタート] ボタンをクリックし、[Windows システム ツール] - [コントロールパネル] をクリックする。

Windows® 8.1 の場合、[スタート] ボタンを右クリックし、クイックリンクメニューの [コントロールパネル] をクリックする。

Windows® 7 の場合、[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックする。

2 コントロールパネルの [ネットワークの状態とタスクの表示] をクリックする。



3 ネットワークと共有センターの [アダプター設定の変更] をクリックする。



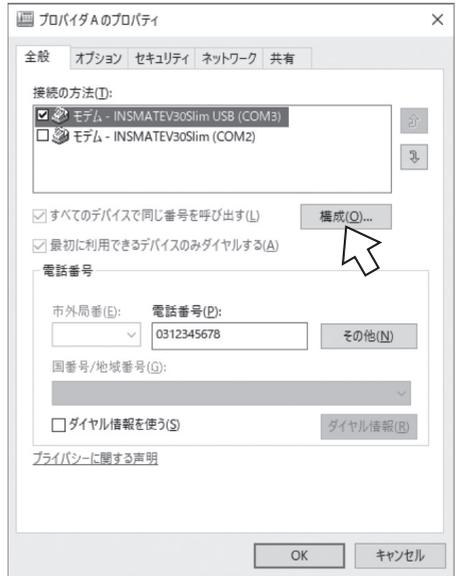
接続の設定をするには

(前ページの続きです)

4 設定した接続先にカーソルを移動して右クリックし、[プロパティ]をクリックする。



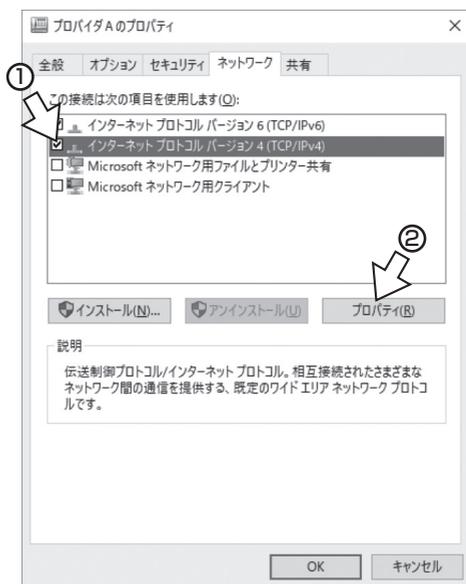
5 「全般」タブ画面で、「構成」をクリックする。



6 [ハードウェア機能] のすべてのチェックを外し、[OK] をクリックする。



7 「ネットワーク」 タグ画面で、[インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/ I P v 4)] を選択し、[プロパティ] をクリックする。



接続の設定をするには

8 [次の DNS サーバーのアドレスを使う] をクリックし、DNS サーバーを設定し、[OK] をクリックする。

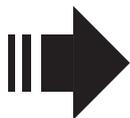
- ・ [IP アドレスを自動的に取得する] にチェックがあることを確認する。
- ・ [優先 DNS サーバー] にプロバイダから通知されたドメインネームサーバーの IP アドレスを入力する。
- ・ プロバイダによっては、ドメインネームサーバーの IP アドレスを入力する必要がある場合があります。その場合は、[DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する] をチェックしてください。



[入力値は例です]

9 [接続先のプロパティ] 画面で [OK] をクリックする。

これで設定は完了です。



TCP/IP の設定が終了したら、必要に応じて次のページをご覧ください。

- ・「インターネット接続編」(取扱説明書 ◀P59)
- ・「電話／ファクス編」(取扱説明書 ◀P73)

その他

| | |
|---------------|----|
| AT コマンド | 66 |
| 設定記入シート | 90 |

AT コマンド

AT コマンドは、米国 Hayes 社が開発したモデムを制御するコマンドで、多くのモデムで採用されています。本商品は、AT コマンドに準拠しており、さらに拡張コマンドを採用しています。AT コマンドで行う設定の主な項目は、設定ユーティリティをご利用になると簡単に設定することができます。(●取扱説明書 P50)

AT コマンドの入力方法

シリアルポート接続が可能な通信ソフトウェアを利用して、AT コマンドを入力します。AT コマンドについては「コマンド形式」(●P68)以降を参照してください。

1 通信ソフトウェアを起動する。

通信ソフトウェアはシリアルポート接続ができるものをご使用ください。

2 シリアルポートの設定（通信設定）を下表のとおり設定します。

| | |
|---------|---|
| 同期方式 | 非同期 |
| データ長 | 8 bit |
| パリティビット | なし |
| ストップビット | 1 bit |
| 通信速度 | 9.6/19.2/38.4/57.6/115.2/230.4 (kbit/s) |
| 接続ポート | 本商品が接続されているシリアルポート (COM ポート) を指定 |

AT コマンドを入力できる状態になります。

3 「AT」を入力し、Enter を押します。

本商品が正しく接続されているときは、「OK」と表示されます。



ワンポイント

● AT コマンドとは

AT コマンドとは、データ通信を行うときに INS メイト V30Slim に対して設定を命令するためのコマンドです。ソフトのインストールや設定についての詳細は、AT コマンド用アプリケーションソフトやパソコンなどの取扱説明書を参照してください。

● 「OK」と表示されないときは

「OK」と表示されないときは、以下の点を確認してください。

・ RS-232C ケーブルまたは USB ケーブル

INS メイト V30Slim とご利用になるパソコンに適合した RS-232C ケーブルまたは USB ケーブルを使用しているか確認してください。

● 入力した AT コマンドが表示されない、またはリザルトコードが正しく表示されないときは

インターネット接続により、エコー設定やリザルトコードの書式設定が変更される場合があります。

AT コマンドやリザルトコードが正しく表示されないときは、「AT E1 V1」と入力したあと、AT コマンドの確認をしてください。



お知らせ

- 通信ソフトウェアをご利用の場合は、お使いのソフトウェアの説明書などを参照して起動し、AT コマンドを入力してください。
- AT コマンド入力についての詳細は、各ソフトウェアメーカー、インターネットサービスプロバイダ、パソコン通信業者にお問い合わせください。

AT コマンド

コマンド形式

AT コマンドは以下の形式で入力します。

| | | | | |
|---|---|------|----|----|
| A | T | コマンド | CR | LF |
|---|---|------|----|----|

- 文字は半角を使用してください。
- AT は「at」でもかまいませんが、「At」や「aT」は使用しないでください。
- コマンドは最大 255 文字まで入力できます。255 文字を超えた場合は、ERROR をパソコンに返します。
- 複数のコマンドを連続して入力することもできます。
- コマンドの中には、コマンドの後ろにパラメータ (n) の必要なものもあります。
- CR (リターンキー) は復帰文字であり、コマンドの区切りを示します。
- LF は省略できます。
- LF は改行文字です。

リザルトコード

送出したコマンドに対して表示される本商品からの応答結果を、リザルトコードといいます。表示されるリザルトコードには、数字形式と文字 (英字) 形式があり、ATV コマンドで選択することができます。

〈数字形式〉

| | |
|--------------|----|
| リザルトコード (数字) | CR |
|--------------|----|

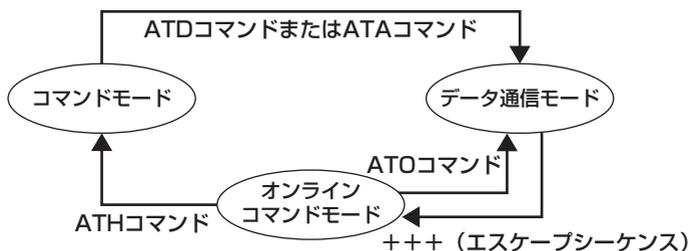
〈文字形式〉

| | | | | |
|----|----|--------------|----|----|
| CR | LF | リザルトコード (文字) | CR | LF |
|----|----|--------------|----|----|

リザルトコード一覧 (●P89)

コマンドモードとデータ通信モード

「コマンドモード」のときは、パソコンから入力した文字は本商品で解釈され、本商品の制御コマンドとみなされます。データ通信モードのときは、実際にデータ通信が行われている状態で、パソコンから入力した文字はそのまま通信相手へ送信されます。パソコンから送信したデータが、本商品を制御するデータなのか、相手に送信するデータなのかを区別するために、これら2つのモードが用意されています。本商品は電源を入れた状態では、コマンドモードになっており、ATDコマンド（発信）でダイヤルしたあと、または着信時に ATA コマンドで応答したあとに、データ通信モードに切り替わります。データ通信モードから一時的にコマンドモードに切り替えたモードをオンラインコマンドモードと呼び、そのためのコマンドとしてエスケープシーケンス（+++）があります。回線を切断するときは、「+++」でオンラインコマンドモードに切り替えたあと、ATH コマンドで切断します。



お知らせ

- 本商品は、パソコンからの ER 信号が ON になると通信可能になります。ER 信号を ON にできないパソコンの場合は、設定ユーティリティまたは AT & D コマンドで「ER 信号を常時 ON とみなす」に設定してください。

AT コマンド

AT コマンド一覧

●ポート共通

■ポート共通設定

| データ定義 | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|--------------|------------------------------|----------------------------|-----|-----------------------------------|---------------|
| サブアドレスなし着信設定 | TEL1ポート TEL2ポート データポート | AT\$A6 AT\$B6 AT\$N6 | 0 | 0:許可する 1:許可しない | あり |
| 機能 | サブアドレスなし着信の選択を行います。 | | | | |
| 設定例 | AT\$A6=0 | | | 表示例 | AT\$A6? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| グローバル着信設定 | TEL1ポート TEL2ポート データポート | AT\$A5 AT\$B5 AT\$N5 | 0 | 0:グローバル着信する 1:グローバル着信しない | あり |
| 機能 | グローバル着信の選択を行います。 | | | | |
| 設定例 | AT\$A5=0 | | | 表示例 | AT\$A5? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| 優先着信ポート指定 | AT\$D3 | | 0 | 0:指定しない 1:TEL1ポート 2:TEL2ポート | あり |
| 機能 | 着信時、優先的に着信するポートの指定を行います。 | | | | |
| 設定例 | AT\$D3=0 | | | 表示例 | AT\$D3? |
| 省略 | 不可 | | | | |

■三者通話

| データ定義 | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-----------|-----------------------|--|-----|-----------------------------------|---------------|
| 三者通話設定 | AT\$D5 | | 0 | 0:使用しない 1:疑似三者通話する 2:三者通話する | あり |
| 機能 | 三者通話を使用するかしないかを設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$D5=0 | | | 表示例 | AT\$D5? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| 話者切替タイム設定 | AT\$D8 | | 4 | 2~9:話者切替までの時間(秒) | あり |
| 機能 | 話者切替時間を設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$D8=4 | | | 表示例 | AT\$D8? |
| 省略 | 不可 | | | | |

■通信中転送

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|---------|------------------------|-----|-------------------|---------------|
| 通信中転送設定 | AT\$D6 | 0 | 0：使用しない 1：使用する | あり |
| 機能 | 通信中転送を使用するかしないかを設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$D6=0 | | 表示例 | AT\$D6? |
| 省略 | 不可 | | | |

■着信転送

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-----------|----------------------------|-----|--|---------------|
| 着信転送設定 | AT\$D7 | 0 | 0：使用しない 1：疑似着信転送する 2：着信転送する | あり |
| 機能 | 着信転送を使用するかしないかを設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$D7=0 | | 表示例 | AT\$D7? |
| 省略 | 不可 | | | |
| 着信転送トーン設定 | AT\$Z5 | 0 | 0：転送トーンなし、転送元トーンなし 1：転送トーンあり、転送元トーンなし 2：転送トーンなし、転送元トーンあり 3：転送トーンあり、転送元トーンあり | あり |
| 機能 | 着信転送時、トーンを使用するかしないかを設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$Z5=0 | | 表示例 | AT\$Z5? |
| 省略 | 不可 | | | |

AT コマンド

■迷惑電話防止

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|------------|-------------------------------|-----|---|-----------------|
| 非通知拒否設定 | AT\$D9 | 1 | 0:する 1:しない | あり |
| 機能 | 迷惑着信拒否の発番号非通知着信についての拒否を設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$D9=0 | | 表示例 | AT\$D9? |
| 省略 | 不可 | | | |
| 迷惑電話防止電話番号 | AT\$D10 | なし | 迷惑着信拒否番号 1～32桁 | あり |
| 機能 | 迷惑電話防止電話番号の登録・消去・表示を行います。 | | | |
| 登録例 | AT\$D10=0312345678 | 消去例 | AT\$D10=#(全消去) AT\$D10=#0312345678 (番号指定消去) | 表示例 AT\$D10? |
| 省略 | 不可 | | | |

■電話番号設定

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-----------------------------------|--|-----|----------------------------------|----------------|
| 契約者回線番号用着信転送先電話番号 | AT\$Y0 | なし | 電話番号 1～32桁 | あり |
| 機能 | 契約者回線番号へ着信時アナログポートの着信転送先電話番号の登録・消去・表示を行います。 | | | |
| 登録例 | AT\$Y0=0312345678 | 消去例 | AT\$Y0=# | 表示例 AT\$Y0? |
| 省略 | 不可 | | | |
| ダイヤルイン/ i・ナンバー用 1 着信転送先電話番号 | AT\$Y1 | なし | 電話番号 1～32桁 | あり |
| 機能 | ダイヤルイン 1 または i・ナンバー情報 1 へ着信時アナログポートの着信転送先電話番号の登録・消去・表示を行います。 | | | |
| 登録例 | AT\$Y1=0312345678 | 消去例 | AT\$Y1=# | 表示例 AT\$Y1? |
| 省略 | 不可 | | | |
| ダイヤルイン/ i・ナンバー用 2 着信転送先電話番号 | AT\$Y2 | なし | 電話番号 1～32桁 | あり |
| 機能 | ダイヤルイン 2 または i・ナンバー情報 2 へ着信時アナログポートの着信転送先電話番号の登録・消去・表示を行います。 | | | |
| 登録例 | AT\$Y2=0312345678 | 消去例 | AT\$Y2=# | 表示例 AT\$Y2? |
| 省略 | 不可 | | | |
| 契約者回線番号用着信転送元電話番号 | AT\$Z0 | なし | 転送元電話番号 1～32桁 転送元サブアドレス 1～19桁 | あり |
| 機能 | アナログポートの着信転送元電話番号およびサブアドレスの登録・消去・表示を行います。 | | | |
| 登録例 | AT\$Z0=0312345678/1234 | 消去例 | AT\$Z0=# | 表示例 AT\$Z0? |
| 省略 | 不可 | | | |

| データ定義 | | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-----------------------------------|---|-----------|----------|-----|------------------------------------|---------------|
| ダイヤルイン/ i・ナンバー用 1 着信転送元電話番号 | | AT\$Z1 | | なし | 転送元電話番号 1～32 桁 転送元サブアドレス 1～19 桁 | あり |
| 機能 | ダイヤルイン 1 または i・ナンバー情報 1 で着信したときの着信転送元の電話番号・サブアドレスの登録・消去・表示を行います。電話番号とサブアドレスの区切り子は / です。 | | | | | |
| 登録例 | AT\$Z1=0312345678/4567 | 消去例 | AT\$Z1=# | 表示例 | AT\$Z1? | |
| 省略 | 不可 | | | | | |
| ダイヤルイン/ i・ナンバー用 2 着信転送元電話番号 | | AT\$Z2 | | なし | 転送元電話番号 1～32 桁 転送元サブアドレス 1～19 桁 | あり |
| 機能 | ダイヤルイン 2 または i・ナンバー情報 2 で着信したときの着信転送元の電話番号・サブアドレスの登録・消去・表示を行います。電話番号とサブアドレスの区切り子は / です。 | | | | | |
| 登録例 | AT\$Z2=0312345678/8901 | 消去例 | AT\$Z2=# | 表示例 | AT\$Z2? | |
| 省略 | 不可 | | | | | |

■発信者番号通知

| データ定義 | | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|---------|-----------------------------|------------------------------|----------------------|-----|-----------------------------------|---------------|
| 発信者番号通知 | | TEL1ポート TEL2ポート データポート | ATC1 ATC2 ATCO | 2 | 0: 通知しない 1: 通知する 2: 申込内容に従う | あり |
| 機能 | 発信時、発信番号情報の付加方法について設定を行います。 | | | | | |
| 設定例 | ATC12 | | | 表示例 | ATC1? | |
| 省略 | 不可 | | | | | |

AT コマンド

■ i・ナンバー

| データ定義 | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|--|-------------------------------|-------------|---|---------------|------------|------------|------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| i・ナンバー | AT\$E0 | | 0 | 0: 使用しない 1: 使用する | あり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 機能 | i・ナンバーの設定をします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設定例 | AT\$E0=0 | | | 表示例 | AT\$E0? | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 省略 | 不可 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| i・ナンバー電話番号 | 1 2 3 | AT\$E1 AT\$E2 AT\$E3 | なし | i・ナンバー情報に対応した電話番号 (1~20桁) | あり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 機能 | i・ナンバー使用時に i・ナンバー情報に対応した電話番号の登録・消去・表示を行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設定例 | AT\$E1=0312345678 | 消去例 | AT\$E1=# | 表示例 | AT\$E1? | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 省略 | 不可 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 発信ポート番号指定 | TEL1ポート TEL2ポート データポート | AT\$A21 AT\$B21 AT\$N21 | 1 2 1 | 1: i・ナンバー情報 1 2: i・ナンバー情報 2 3: i・ナンバー情報 3 | あり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 機能 | i・ナンバーを利用している場合の発信時 INS ネット 64 に送出する i・ナンバー情報を指定します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設定例 | AT\$A21=1 | | | 表示例 | AT\$A21? | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 省略 | 不可 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| i・ナンバー着信設定 | TEL1ポート TEL2ポート データポート | AT\$A22 AT\$B22 AT\$N22 | 1 2 3 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>設定値</th> <th>i・ナンバー情報 1</th> <th>i・ナンバー情報 2</th> <th>i・ナンバー情報 3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr> <tr><td>1</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td></tr> <tr><td>2</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td></tr> <tr><td>3</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td></tr> <tr><td>4</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td></tr> <tr><td>5</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td></tr> <tr><td>6</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>7</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </tbody> </table> <p>○: 着信可 ×: 着信不可</p> | 設定値 | i・ナンバー情報 1 | i・ナンバー情報 2 | i・ナンバー情報 3 | 0 | × | × | × | 1 | ○ | × | × | 2 | × | ○ | × | 3 | ○ | ○ | × | 4 | × | × | ○ | 5 | ○ | × | ○ | 6 | × | ○ | ○ | 7 | ○ | ○ | ○ | あり |
| 設定値 | i・ナンバー情報 1 | i・ナンバー情報 2 | i・ナンバー情報 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0 | × | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | ○ | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | × | ○ | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | ○ | ○ | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | × | × | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | ○ | × | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | × | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 機能 | i・ナンバー着信時、i・ナンバー情報に対応して着信するポートを設定します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設定例 | AT\$A22=1 | | | 表示例 | AT\$A22? | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 省略 | 不可 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

●アナログポート

■アナログポート各種設定

| データ定義 | | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|--------------|--------------------------|--------------------|--------------------|--------|--|---------------|
| 発信者番号 | | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$A20 AT\$B20 | なし | 電話番号 1～32桁 | あり |
| 機能 | 発信者番号の登録・消去・表示を行います。 | | | | | |
| 登録例 | AT\$A20=0312345678 | 消去例 | AT\$A20# | 表示例 | AT\$A20? | |
| 省略 | 不可 | | | | | |
| アナログポート接続設定 | | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$A28 AT\$B28 | 1 | 0: 使用しない 1: 使用する | あり |
| 機能 | アナログポートを使用するかしないかを設定します。 | | | | | |
| 設定例 | AT\$A28=0 | | | 表示例 | AT\$A28? | |
| 省略 | 不可 | | | | | |
| 着信する番号 | | TEL1ポート TEL2ポート | AT#ZAn AT#ZBn | なし | n: 対地番号 (0～7) 着信する番号 1～32桁 | あり |
| 機能 | 着信する番号の登録・消去・表示を行います。 | | | | | |
| 登録例 | AT#ZAO=0312345678 | 消去例 | AT#ZAO# | 表示例 | AT#ZAO? | |
| 省略 | 不可 | | | | | |
| サブアドレス | | TEL1ポート TEL2ポート | AT#ZA AT#ZB | なし | サブアドレス 1～19桁 | あり |
| 機能 | サブアドレスの登録・消去・表示を行います。 | | | | | |
| 登録例 | AT#ZA = 9876 | | 消去例 | AT#ZA# | 表示例 | AT#ZA? |
| 省略 | 不可 | | | | | |
| 受話音量調整 | | TEL1ポート TEL2ポート | AT&H1 AT&H2 | 1 | 0: 小 1: 中 2: 大 | あり |
| 機能 | アナログ電話機の受話音量の調整ができます。 | | | | | |
| 設定例 | AT&H1 = 1 | | | 表示例 | AT&H1? | |
| 省略 | 不可 | | | | | |
| アナログポート設定値表示 | | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$AO AT\$BO | なし | AT\$AOでTEL1ポートの情報 を表示します。 AT\$BOでTEL2ポートの情報 を表示します。 | なし |
| 接続機器設定 | | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$A1 AT\$B1 | 1 | 0: 電話機 1: ファクス付き電話機・モデム・ Lモード対応電話機 | あり |
| 機能 | アナログポートの接続機器を設定します。 | | | | | |
| 設定例 | AT\$A1=0 | | | 表示例 | AT\$A1? | |
| 省略 | 不可 | | | | | |

AT コマンド

(前ページの続きです)

| データ定義 | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|--------------------------|--|--------------------|-----|--|---------------|
| HLC (高位レイヤ整合性) 設定 | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$A2 AT\$B2 | 0 | 0: HLC 設定しない 1: HLC 設定する | あり |
| 機能 | HLC 設定を行うかどうかを設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$A2=0 | | | 表示例 | AT\$A2? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| 内線呼出信号設定 | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$A8 AT\$B8 | 1 | 0: 呼出信号 1 1: 呼出信号 2 | あり |
| 機能 | 内線呼出信号音の選択を行います。 | | | | |
| 設定例 | AT\$A8=0 | | | 表示例 | AT\$A8? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| ダイヤル種別 | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$A18 AT\$B18 | 0 | 0: PB 固定 1: DP 固定 | あり |
| 機能 | アナログポートへ接続する端末に応じてダイヤル種別を PB 固定 / DP 固定に設定できます。 | | | | |
| 設定例 | AT\$A18=0 | | | 表示例 | AT\$A18? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| 発信規制 | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$A19 AT\$B19 | 0 | 0: 規制しない 1: 0 発信規制 2: 外線発信規制 | あり |
| 機能 | アナログ通信機器からの外線発信を規制することができます。 | | | | |
| 設定例 | AT\$A19=0 | | | 表示例 | AT\$A19? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| 内線機能 | AT\$D64 | | 1 | 0: 内線機能使用しない 1: 内線機能使用する | あり |
| 機能 | アナログ通信機器からの内線発信および内線転送を使用するかしないかを設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$D64=1 | | | 表示例 | AT\$D64? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| FAX 自動転送設定 | AT\$D65 | | 0 | 0: 転送しない 1: 転送する | あり |
| 機能 | 着信応答後の CNG 信号検出で TEL1 ポートから TEL2 ポートへの内線転送を行うか行わないかを設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$D65=0 | | | 表示例 | AT\$D65? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| フッキング検出時間 | AT\$D73 | | 1 | 0: 短い(100 ms~500 ms) 1: 普通(300 ms~1000 ms) 2: 長い(500 ms~1500 ms) | あり |
| 機能 | フックボタンを押したときにフッキングと認識させる時間を設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$D73=1 | | | 表示例 | AT\$D73? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| ダイヤル桁間タイマ | AT\$D74 | | 04 | 02 ~ 15 : 2 秒 ~ 15 秒 | あり |
| 機能 | ダイヤル間の間隔時間を設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$D74=04 | | | 表示例 | AT\$D74? |
| 省略 | 不可 | | | | |

| データ定義 | | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-----------|-------------------------------------|-----------|---------|-----|--|---------------|
| ダイヤル終了識別 | | AT\$D75 | | 1 | 0:ダイヤル終了手動識別しない 1:ダイヤル終了手動識別する(＃) 2:ダイヤル終了手動識別する(##) | あり |
| 機能 | ダイヤル終了を手動で行えるように設定します。 | | | | | |
| 設定例 | AT\$D75=1 | | | 表示例 | AT\$D75? | |
| 省略 | 不可 | | | | | |
| メッセージあり表示 | | AT\$D76 | | 1 | 0:表示しない 1:表示する | あり |
| 機能 | メッセージあり情報をランプで表示するかしないかを設定します。 | | | | | |
| 設定例 | AT\$D76=1 | | | 表示例 | AT\$D76? | |
| 省略 | 不可 | | | | | |
| メッセージあり通知 | | TEL1ポート | AT\$A29 | 0 | 0:しない 1:する | あり |
| | | TEL2ポート | AT\$B29 | | | |
| 機能 | メッセージあり情報をアナログ通信機器に通知するかしないかを設定します。 | | | | | |
| 設定例 | AT\$A29=0 | | | 表示例 | AT\$A29? | |
| 省略 | 不可 | | | | | |

■ナンバー・ディスプレイ

| データ定義 | | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|------------------------|--|-----------|---------|-----|---------------|---------------|
| ナンバー・ディスプレイ発信者番号通知 | | TEL1ポート | AT\$A9 | 0 | 0:しない 1:する | あり |
| | | TEL2ポート | AT\$B9 | | | |
| 機能 | 発信者番号をアナログ通信機器に通知をするかしないかを設定します。 | | | | | |
| 設定例 | AT\$A9=0 | | | 表示例 | AT\$A9? | |
| 省略 | 不可 | | | | | |
| ナンバー・ディスプレイ発サブアドレス付加設定 | | TEL1ポート | AT\$A12 | 0 | 0:しない 1:する | なし |
| | | TEL2ポート | AT\$B12 | | | |
| 機能 | 発信者番号に発サブアドレスが含まれる場合、アナログ通信機器に通知するかしないかを設定します。 | | | | | |
| 設定例 | AT\$A12=0 | | | 表示例 | AT\$A12? | |
| 省略 | 不可 | | | | | |

■ネーム・ディスプレイ

| データ定義 | | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|------------------|-------------------------------|-----------|---------|-----|---------------|---------------|
| ネーム・ディスプレイ発信者名通知 | | TEL1ポート | AT\$A30 | 0 | 0:しない 1:する | あり |
| | | TEL2ポート | AT\$B30 | | | |
| 機能 | 発信者名をアナログ通信機器へ通知するかどうかを設定します。 | | | | | |
| 設定例 | AT\$A30=0 | | | 表示例 | AT\$A30? | |
| 省略 | 不可 | | | | | |

AT コマンド

■モデムダイヤルイン

| データ定義 | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|--------------------------|---|--------------------|-----------|------------------|---------------|
| モデムダイヤルイン 着番号通知 | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$A10 AT\$B10 | 0 | 0:しない 1:する | あり |
| 機能 | 着信ダイヤルイン番号をアナログ通信機器に通知するかしないかを設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$A10=0 | | | 表示例 | AT\$A10? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| モデムダイヤルイン 着サブアドレス付加設定 | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$A13 AT\$B13 | 0 | 0:しない 1:する | なし |
| 機能 | 着信ダイヤルイン番号に着サブアドレスが含まれた場合、アナログ通信機器に通知するかしないかを設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$A13=0 | | | 表示例 | AT\$A13? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| モデムダイヤルイン 契約者回線番号 | AT\$D11 | | なし | 契約者回線番号 1 ~ 20 桁 | あり |
| 機能 | モデムダイヤルイン時、契約者回線番号で着信した場合に送出するダイヤルイン番号の登録・消去・表示を行います。 | | | | |
| 登録例 | AT\$D11=0312345678 | 消去例 | AT\$D11=# | 表示例 | AT\$D11? |
| 省略 | 不可 | | | | |

■なりわけ

| データ定義 | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|----------|--|--------------------|----------|--|---------------|
| INS なりわけ | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$A15 AT\$B15 | 0 | 0:使用しない 1:使用する | あり |
| 機能 | INS なりわけサービスを使用するかしないかを設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$A15=0 | | | 表示例 | AT\$A15? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| 疑似なりわけ | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$A16 AT\$B16 | 0 | 0:使用しない 1:使用する | あり |
| 機能 | 疑似なりわけを使用するかしないかを設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$A16=0 | | | 表示例 | AT\$A16? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| なりわけ動作設定 | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$A17 AT\$B17 | 0 | 0:識別リングング 1:セキュリティ(着信拒否) | あり |
| 機能 | INS なりわけまたは疑似なりわけを使用するときの動作を設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$A17=0 | | | 表示例 | AT\$A17? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| 疑似なりわけ番号 | TEL1ポート TEL2ポート | AT&Y1t AT&Y2t | なし | t:疑似なりわけ番号 (0 ~ 9) 電話番号 1 ~ 32 桁 サブアドレス 1 ~ 19 桁 | あり |
| 機能 | 疑似なりわけ番号の登録・消去・表示を行います。電話番号とサブアドレスの区切り子は/です。 | | | | |
| 登録例 | AT&Y10=0312345678/9876 | 消去例 | AT&Y10=# | 表示例 | AT&Y10? |
| 省略 | 不可 | | | | |

■キャッチホン・ディスプレイ

| データ定義 | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|----------------------------------|---|----------------------|-----|---------------|---------------|
| キャッチホン・ディスプレイ 発信者番号通知 | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$A23 AT\$B23 | 0 | 0:しない 1:する | あり |
| 機能 | キャッチホンの発信者番号をアナログ通信機器に通知をするかしないかを設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$A23=0 | | | 表示例 | AT\$A23? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| キャッチホン・ディスプレイ 発サブアドレス付加 設定 | TEL1ポート TEL2ポート | AT \$A24 AT \$B24 | 0 | 0:しない 1:する | なし |
| 機能 | キャッチホンの発信者番号に発サブアドレスが含まれる場合、アナログ通信機器に通知するかしないかを設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$A24=0 | | | 表示例 | AT\$A24? |
| 省略 | 不可 | | | | |

■着信拒否

| データ定義 | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-------|------------------------|----------------------|-----|-----------------------|---------------|
| 着信拒否 | TEL1ポート TEL2ポート | AT¥T1/1* AT¥T2/1* | 1 | 0:着信拒否する 1:着信拒否しない | あり |
| 機能 | TEL1、2ポートへの着信拒否を設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT¥T1/1*0 | | | 表示例 | AT¥T1/1*? |
| 省略 | 不可 | | | | |

■キャッチホン

| データ定義 | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|--------|----------------------------|----------------------|-----|-------------------------------------|---------------|
| キャッチホン | TEL1ポート TEL2ポート | AT¥T1/2* AT¥T2/2* | 0 | 0:しない 1:疑似キャッチホン 2:INS キャッチホン | あり |
| 機能 | TEL1、2ポートへのキャッチホンの設定を行います。 | | | | |
| 設定例 | AT¥T1/2*0 | | | 表示例 | AT¥T1/2*? |
| 省略 | 不可 | | | | |

AT コマンド

■ FAX 無鳴動着信設定

| データ定義 | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-------------|--------------------|--------------------|-----|---------------|---------------|
| FAX 無鳴動着信設定 | TEL1ポート TEL2ポート | AT\$A27 AT\$B27 | 0 | 0:しない 1:する | あり |
| 機能 | FAX 無鳴動着信を設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$A27=0 | | | 表示例 | AT\$A27? |
| 省略 | 不可 | | | | |

● データポート

■ データポート各種設定

| データ定義 | AT コマンド名称 | | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-------------------|---|-----|----------|--|---------------|
| 発信者番号 登録・消去・表示 | AT\$N20 | | なし | 電話番号 1～32桁 | あり |
| 機能 | 発信者番号の登録・消去・表示を行います。 | | | | |
| 登録例 | AT\$N20=0312345678 | 消去例 | AT\$N20# | 表示例 | AT\$N20? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| 着信する番号/サブ アドレス | AT#ZN | | なし | 着信する番号 1～32桁 サブアドレス 1～19桁 | あり |
| 機能 | 着信する番号、サブアドレスの登録・消去・表示を行います。電話番号とサブアドレスの区切り子は/です。 | | | | |
| 登録例 | AT#ZN=0312345678/4567 | 消去例 | AT#ZN# | 表示例 | AT#ZN? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| データポート設定値 表示 | AT\$N0 | | なし | AT\$N0 でデータポートの情 報を表示します。 | なし |
| 無通信監視タイマ | AT\$N9 | | 10 | 0:監視しない 1～10(分) | あり |
| 機能 | 無通信監視タイマの設定を行います。 | | | | |
| 設定例 | AT\$N9=0 | | | 表示例 | AT\$N9? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| 強制切断タイマ | AT\$N10 | | 10 | 0:切断しない 1～10(時間) | あり |
| 機能 | 強制切断タイマの設定を行います。 | | | | |
| 設定例 | AT\$N10=0 | | | 表示例 | AT\$N10? |
| 省略 | 不可 | | | | |
| 通信モード | AT\$N11 | | 0 | 0:非同期/同期 PPP (マル チリンク通信しない) 1:マルチリンクプロトコル PPP | なし |
| 機能 | マルチリンク通信の選択を行います。 | | | | |
| 設定例 | AT\$N11=0 | | | 表示例 | AT\$N11? |
| 省略 | 不可 | | | | |

■ CTI 発信

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-----------------------|--|-----|---|---------------|
| CTI 呼出種別設定 | AT\$N13 | 1 | 0: 送出不しい 1: 呼出信号 1 2: 呼出信号 2 | あり |
| 機能 | CTI 発信時、アナログ通信機器への呼出種別を設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$N13=1 | | 表示例 | AT\$N13? |
| 省略 | 不可 | | | |
| CTI 呼出時間設定 | AT\$N14 | 8 | 1: 15 秒 2: 30 秒 3: 45 秒 4: 60 秒 5: 90 秒 6: 120 秒 7: 150 秒 8: 180 秒 | あり |
| 機能 | CTI 発信時、アナログ通信機器への呼出時間を設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$N14=1 | | 表示例 | AT\$N14? |
| 省略 | 不可 | | | |
| CTI 情報出力 (出力ポート設定) | AT\$D12 | 9 | 0: TEL1 または TEL2 への着信を出力する 1: TEL1 への着信を出力する 2: TEL2 への着信を出力する 9: 出力しない | あり |
| 機能 | TEL1・2 ポートへの着信時、相手の発信者番号 (発番号、発サブアドレス) または非通知理由をデータポートに表示するよう設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$D12=1 | | 表示例 | AT\$D12? |
| 省略 | 不可 | | | |
| CTI 情報出力 (表示フォーマット設定) | AT\$D13 | 0 | 0: 表示フォーマット 1 1: 表示フォーマット 2 | あり |
| 機能 | CTI 情報出力の表示フォーマットを設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$D13=1 | | 表示例 | AT\$D13? |
| 省略 | 不可 | | | |
| CTI 発信 | AT!D | なし | アナログポート番号:1または2 着番号:1~32桁 着サブアドレス:1~19桁 | なし |
| 機能 | AT コマンド入力により、アナログポートの発信を行うことができます。 アナログポート番号と着番号の区切り子は、: (セミコロン) です。 着番号と着サブアドレスの区切り子は、/ (スラッシュ) です。 | | | |
| 設定例 | AT!D1:0312345678/9999 | | 表示例 | なし |
| 省略 | なし | | | |
| CTI 発信取り消し | AT!H | なし | アナログポート番号:1または2 | なし |
| 機能 | CTI 発信後、アナログポートに接続したアナログ通信機器を呼び出している間に発信を取り消すことができます。 | | | |
| 設定例 | AT!H1 | | 表示例 | なし |
| 省略 | なし | | | |

AT コマンド

■信号線制御

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|----------------------|--------------------------|-----|--|---------------|
| CD 信号制御 (ON 状態定義) | AT&C | 1 | 0:常時 ON 1:回線接続中 ON | なし |
| 機能 | CD 信号制御を設定します。 | | | |
| 設定例 | AT&CO | | 表示例 | AT&C? |
| 省略 | AT&C 省略時は AT&CO と同等とします。 | | | |
| ER 信号制御 | AT&D | 2 | 0:常時 ON とみなす 2:オンラインモード時 OFF で回線切断 | あり |
| 機能 | ER 信号制御を設定します。 | | | |
| 設定例 | AT&DO | | 表示例 | AT&D? |
| 省略 | AT&D 省略時は AT&DO と同等とします。 | | | |
| DR 信号制御 (ON 状態定義) | AT&S | 0 | 0:常時 ON 1:回線接続中 ON | なし |
| 機能 | DR 信号制御を設定します。 | | | |
| 設定例 | AT&SO | | 表示例 | AT&S? |
| 省略 | AT&S 省略時は AT&SO と同等とします。 | | | |

■ BOD 条件設定

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|---------------|---------------------------------|-----|--|---------------|
| BACP 設定 | AT\$M1 | 0 | 0:BACP を使用しない 1:BACP を使用する | あり |
| 機能 | BACP を利用するかしないかを設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$M1=1 | | 表示例 | AT\$M1? |
| 省略 | 不可 | | | |
| リソース BOD 設定 | AT\$M2 | 0 | 0:リソース BOD 機能を使用しない 1:発信/着信時に使用する 2:発信時にのみ使用する 3:着信時にのみ使用する | あり |
| 機能 | リソース BOD 時のリンク追加/削除の対応方法を設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$M2=1 | | 表示例 | AT\$M2? |
| 省略 | 不可 | | | |
| スループット BOD 設定 | AT\$M3 | 0 | 0:スループット BOD 機能を使用しない 1:スループット BOD 機能を使用する | あり |
| 機能 | スループット BOD の適用を設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$M3=1 | | 表示例 | AT\$M3? |
| 省略 | 不可 | | | |

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-------------------------|----------------------------------|-----|--------------------------------------|---------------|
| スループット BOD リンク追加算出時間 | AT\$M4 | 30 | 10~60:10秒から60秒 ただし、10秒単位の設定のみ可 | あり |
| 機能 | スループット BOD 時のリンク追加算出時間を設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$M4=30 | | 表示例 | AT\$M4? |
| 省略 | 不可 | | | |
| スループット BOD リンク削除算出時間 | AT \$M5 | 10 | 10~60:10秒から60秒 ただし、10秒単位の設定のみ可 | あり |
| 機能 | スループット BOD 時のリンク削除算出時間を設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$M5=10 | | 表示例 | AT\$M5? |
| 省略 | 不可 | | | |
| スループット BOD リンク追加しきい値 | AT \$M6 | 70 | 60~90:60 %から90 % ただし、10 %単位の設定のみ可 | あり |
| 機能 | スループット BOD 時のリンク追加を行うしきい値を設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$M6=70 | | 表示例 | AT\$M6? |
| 省略 | 不可 | | | |
| スループット BOD リンク削除しきい値 | AT \$M7 | 20 | 10~40:10 %から40 % ただし、10 %単位の設定のみ可 | あり |
| 機能 | スループット BOD 時のリンク削除を行うしきい値を設定します。 | | | |
| 設定例 | AT\$M7=20 | | 表示例 | AT\$M7? |
| 省略 | 不可 | | | |

■各種製品情報

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-----------------|-------------------------------|-----|--------------------------------|---------------|
| 製品 ID 表示 | ATI | なし | 3 : ROM バージョン 4 : 製品名称 | あり |
| 機能 | 装置名称、ROM バージョンを表示します。 | | | |
| 設定例 | なし | | 表示例 | ATI3 |
| 省略 | 不可 | | | |
| リザルトコード有無 | ATQ | 0 | 0 : リザルトコードあり 1 : リザルトコードなし | なし |
| 機能 | リザルトコードを返すか返さないかを指定します。 | | | |
| 設定例 | ATQ1 | | 表示例 | ATQ? |
| 省略 | ATQ 省略時は ATQO と同等とします。 | | | |
| リザルトコード表示 形式 | ATV | 1 | 0 : 数字形式 1 : 文字形式 | なし |
| 機能 | リザルトコードを数字で返すか英数文字で返すかを指定します。 | | | |
| 設定例 | ATV1 | | 表示例 | ATV? |
| 省略 | ATV 省略時は ATVO と同等とします。 | | | |

(次ページへ続きます)

AT コマンド

(前ページの続きです)

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|---------------------|---|-----|---|---------------|
| リザルトコード書式 | ATX | 0 | 0 : 接続時のリザルト 「CONNECT」 1 : 接続時のリザルト 「CONNECT 64000」 | なし |
| 機能 | リザルトコードの書式を変更します。 | | | |
| 設定例 | ATX0 | | 表示例 | ATX? |
| 省略 | ATX 省略時は ATX0 と同義とします。 | | | |
| 累積通話料金 | AT¥Cpn | なし | p : 0 : データポートの課金情報 を表示する 1 : アナログポート 1 の課 金情報を表示する 2 : アナログポート 2 の課 金情報を表示する n : 0 : 表示 1 : 料金情報クリア | あり |
| 機能 | ポートごとの通話料金を累積し表示・クリアすることができます。 本商品に電池が入っていない状態で電源アダプタを抜くと、情報はなくなります。 | | | |
| 設定例 | なし | | 表示例 | AT¥C10 |
| 省略 | 不可 | | | |
| データ通信詳細履歴 表示 | AT¥H | なし | 0 : 通信記録 10 件分表示 1 : 前半 5 件分表示 2 : 後半 5 件分表示 | あり |
| 機能 | データ通信を記録し表示することができます。 本商品に電池が入っていない状態で電源アダプタを抜くと、情報はなくなります。 | | | |
| 設定例 | なし | | 表示例 | AT¥H0 |
| 省略 | 不可 | | | |
| データ通信詳細履歴 削除 | AT%Z | なし | 一括削除 | あり |
| 機能 | データ通信記録を削除します。 | | | |
| 設定例 | AT%Z | | 表示例 | なし |
| 省略 | 不可 | | | |
| コマンド一覧表示 | AT¥S3 | なし | | なし |
| 機能 | AT コマンドを一覧表示します。 | | | |
| 設定例 | なし | | 表示例 | AT¥S3 |
| 省略 | 不可 | | | |
| 課金情報表示 (直前の課金情報) | AT¥Y | なし | 0 : データポートの課金情報を 表示する 1 : アナログポート 1 の課金 情報を表示する 2 : アナログポート 2 の課金 情報を表示する | あり |
| 機能 | 直前に行った通話料金の表示を行います。 本商品に電池が入っていない状態で電源アダプタを抜くと、情報はなくなります。 | | | |
| 設定例 | なし | | 表示例 | AT¥Y0 |
| 省略 | 不可 | | | |

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|---------------|------------------|-----|---|---------------|
| アナログポート着信履歴表示 | AT¥Lpn | なし | p : 1 : アナログポート 1 2 : アナログポート 2 n : 0 : 表示 1 : クリア | あり |
| 機能 | 直前の着信の発信者番号を表示する | | | |
| 設定例 | なし | | 表示例 | AT¥L10 |
| 省略 | 不可 | | | |

■呼制御関連

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|----------------|--|-----|--|---------------|
| 着信応答 | ATA | なし | | なし |
| 機能 | 「RING」が表示されているときに本コマンドを入力して応答し、相手と通信中になります。 | | | |
| 設定例 | ATA | | 表示例 | なし |
| 省略 | 不可 | | | |
| RING レスポンス付加情報 | ATW | 0 | 0 : RING のみ 2 : 発番号、発サブアドレス、ユーザデータ 3 : サービス表示、発番号、発サブアドレス、着番号、着サブアドレス、i・ナンバー | なし |
| 機能 | リザルトコード「RING」の表示の仕方を設定します。電話番号とサブアドレスの区切り子は「/」、ユーザデータとの区切り子は「+」です。 | | | |
| 設定例 | ATWO | | 表示例 | ATW ? |
| 省略 | ATW 省略時は ATWO と同等とします。 | | | |
| RING レスポンス回数 | ATSO | 1 | 0 : 自動応答しない 1 ~ 255 : 自動応答までの RING 回数 | なし |
| 機能 | 自動応答するかしないかを設定します。自動応答する場合は、応答までの「RING」レスポンス回数を設定します。設定値の表示は 000 ~ 255 の 3 桁で表示されます。 | | | |
| 設定例 | ATSO = 128 | | 表示例 | ATSO ? |
| 省略 | 不可 | | | |
| ダイヤル発信 | ATD | なし | | なし |
| 機能 | 発信して相手を呼び出します。電話番号とサブアドレスの区切り子は「/」、ユーザデータとの区切り子は「+」です。 | | | |
| 設定例 | ATD0312345678 / 1234 | | 表示例 | なし |
| 省略 | 不可 | | | |
| ダイヤル再発信 | ATD¥ | なし | | なし |
| 機能 | 直前に発信した相手を再度呼び出します。 | | | |
| 設定例 | ATD¥ | | 表示例 | なし |
| 省略 | 不可 | | | |

(次ページへ続きます)

AT コマンド

(前ページの続きです)

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-----------------------------|--|-----|----------------------------|---------------|
| 切断 | ATH | なし | | なし |
| 機能 | 通信を切断または着信を拒否します。 | | | |
| 設定例 | ATH | | 表示例 | なし |
| 省略 | 不可 | | | |
| データ通信中のコマンドモードからデータ通信モードへ戻す | ATO (オー) | なし | | なし |
| 機能 | エスケープコマンド(+++)を入力したあとのオンラインコマンドモード状態から通信状態に戻します。 | | | |
| 設定例 | ATO | | 表示例 | なし |
| 省略 | 不可 | | | |
| エコー有無 | ATE | 1 | 0: エコーバックなし 1: エコーバックあり | なし |
| 機能 | エコーバックするか否かを設定します。 | | | |
| 設定例 | ATE1 | | 表示例 | ATE? |
| 省略 | ATE 省略時は ATE0 と同等とします。 | | | |

■初期化

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|--------|--|-----|---------------------------------------|---------------|
| リセット処理 | ATZ | なし | 0: 保存値を読み出す 98: すべてのパラメータを工場出荷値とする | なし |
| 機能 | すべてのパラメータを初期値に戻します。 | | | |
| 設定例 | ATZ98 | | 表示例 | なし |
| 省略 | 不可 | | | |
| 初期値に戻す | AT&F | なし | | あり |
| 機能 | 発信者番号、i・ナンバー電話番号、各ポートの着信する番号、各ポートのサブアドレス、モデムダイヤルイン用契約者回線番号、疑似なりわけ番号、着信転送先電話番号、着信転送元電話番号、着信転送元サブアドレス、迷惑電話防止電話番号、通信履歴、アナログポートの着信履歴およびカレンダー以外のパラメータを初期値に戻します。 | | | |
| 設定例 | AT&F | | 表示例 | なし |
| 省略 | 不可 | | | |

■設定値保存

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-------|--------------------------|-----|-------|---------------|
| 設定値保存 | AT\$S | なし | | あり |
| 機能 | AT コマンドで設定したパラメータを保存します。 | | | |
| 設定例 | AT\$S | | 表示例 | なし |
| 省略 | 不可 | | | |

■自動速度検出

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|---------------------|--|-----|---|---------------|
| 自動速度検出有無 | ATU11 | 1 | 0 : 自動速度検出しない 1 : 自動速度検出する | なし |
| 機能 | 自動速度検出の選択を行います。 ①自動速度検出有無、自動速度検出無効時固定速度設定実施後に必ず設定値保存 (AT \$S) を行ってください。 ②上記①実施後に一度、本商品の電源アダプタおよび乾電池を抜いてください。 | | | |
| 設定例 | ATU11 = 1 | | 表示例 | ATU11? |
| 省略 | 不可 | | | |
| 自動速度検出無効時 固定速度設定 | ATU12 | 0 | 0 : 9.6 kbit/s 3 : 19.2 kbit/s 5 : 38.4 kbit/s 6 : 57.6 kbit/s 7 : 115.2 kbit/s 8 : 230.4 kbit/s | なし |
| 機能 | 自動速度検出無効時に、本商品とパソコン間の通信速度を設定します。 | | | |
| 設定例 | ATU12 = 7 | | 表示例 | ATU12? |
| 省略 | 不可 | | | |

■カレンダー設定

| データ定義 | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|---------|--|--|--|---------------|
| カレンダー設定 | AT%D | 年:2001 月:01 日:01 時:00 分:00 | 年: 2001 ~ 2090 月: 01 ~ 12 日: 01 ~ 31 時: 00 ~ 23 分: 00 ~ 59 | あり |
| 機能 | カレンダー設定を行います。年、月、日、時、分の区切り子は/です。カレンダーの上限は2090年9月18日までです。 | | | |
| 設定例 | AT%D=2001/12/31/23/59(2001年12月31日23時59分) | | 表示例 | AT%D? |
| 省略 | 不可 | | | |



お知らせ

- ATU11 コマンドと ATU12 コマンドは、AT \$S コマンド実行後、電源アダプタおよび乾電池を抜いて、再度、電源アダプタを電源コンセントに差し込み、乾電池を入れることにより有効となります。

AT コマンド

■ RVS-COM

| データ定義 | | AT コマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-------------------|---|-----------|-----|--|---------------|
| RVS-COM転送方法 | | AT\$M8 | 0 | 0:アナログ通信機器の操作で転送/指定時間後に自動転送 1:直ちに自動転送 | あり |
| 機能 | RVS-COM の転送方法を設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$M8=0 | | 表示例 | AT\$M8? | |
| 省略 | 不可 | | | | |
| RVS-COM モードへの移行時間 | | AT\$M9 | 0 | 0: 無応答時転送しない (アナログ機器の操作で転送) 1: 5 秒 2: 10 秒 3: 15 秒 4: 20 秒 5: 25 秒 6: 30 秒 7: 35 秒 8: 40 秒 9: 45 秒 10: 50 秒 11: 55 秒 12: 60 秒 13: 75 秒 14: 90 秒 15: 105 秒 16: 120 秒 | あり |
| 機能 | RVS-COM モードへの移行時間を設定します。設定値の表示は 00 ~ 16 の 2 桁で表示されます。 | | | | |
| 設定例 | AT\$M9=0 | | 表示例 | AT\$M9? | |
| 省略 | 不可 | | | | |
| CIP 値の設定 | | AT\$M10 | 1 | 1: 1 2: 2 4: 4 16: 16 17: 17 18: 18 | なし |
| 機能 | CIP 値を設定します。設定値の表示は 01 ~ 18 の 2 桁で表示されます。 | | | | |
| 設定例 | AT\$M10=1 | | 表示例 | AT\$M10? | |
| 省略 | 不可 | | | | |
| RVS-COM 起動 | | AT\$M11 | 0 | 0: 未起動 1: 起動 | なし |
| 機能 | RVS-COM 起動を設定します。 | | | | |
| 設定例 | AT\$M11=1 | | 表示例 | AT\$M11? | |
| 省略 | 不可 | | | | |

| データ定義 | ATコマンド名称 | 初期値 | データ範囲 | 設定ユーティリティでの設定 |
|-----------------------|---------------------------|-----|--|---------------|
| RVS-COM の i・ナンバー設定 | AT\$M13 | 0 | 0:i・ナンバー情報を付加しない 1:i・ナンバー情報1を付加する 2:i・ナンバー情報2を付加する 3:i・ナンバー情報3を付加する | なし |
| 機能 | RVS-COMの発信時のi・ナンバーを設定します。 | | | |
| 設定 | AT\$M13=0 | | 表示例 | AT\$M13? |
| 省略 | 不可 | | | |

リザルトコード一覧

| データ定義 | リザルトコード名称 | 説明 |
|-------|---------------|---|
| 0 | OK | コマンド正常終了 |
| 1 | CONNECT | 通信相手との接続完了 |
| 2 | RING | 着信通知 |
| 3 | NO CARRIER | 回線切断/接続不可 |
| | DELAYED | 不正ダイヤル |
| 4 | ERROR | 不正コマンド |
| 7 | BUSY | 相手通信中 |
| 8 | ER OFF | ER信号OFFでATDコマンドを実行/着信中ER信号OFFでATAコマンドを実行 |
| 19 | CONNECT 64000 | 通信相手との接続完了 (リザルトコード書式を「CONNECT 64000」に設定したとき) |

設定記入シート

本ページ以降（P90～97）の設定記入シートをプリントアウトして設定内容を記入し、保守のための資料としてご利用ください。

下線はお買い求め時の設定です。

商品名（ INS メイト V30Slim ）

■ i・ナンバー設定

i・ナンバー 使用する 使用しない

| | i・ナンバー電話番号 | i・ナンバー着信設定 | 発信ポート番号指定 |
|-----------|------------|--|--|
| i・ナンバー情報1 | | <input type="checkbox"/> TEL1 <input type="checkbox"/> TEL2 <input type="checkbox"/> データ | <input type="checkbox"/> OTEL1 <input type="checkbox"/> OTEL2 <input type="checkbox"/> データ |
| i・ナンバー情報2 | | <input type="checkbox"/> TEL1 <input type="checkbox"/> TEL2 <input type="checkbox"/> データ | <input type="checkbox"/> OTEL1 <input type="checkbox"/> OTEL2 <input type="checkbox"/> データ |
| i・ナンバー情報3 | | <input type="checkbox"/> TEL1 <input type="checkbox"/> TEL2 <input type="checkbox"/> データ | <input type="checkbox"/> OTEL1 <input type="checkbox"/> OTEL2 <input type="checkbox"/> データ |

■ TEL1 ポート設定

・発信・着信 1

発信者番号（ ）

着信する番号

| | 着信する番号 | | 着信する番号 |
|---|--------|---|--------|
| 0 | | 4 | |
| 1 | | 5 | |
| 2 | | 6 | |
| 3 | | 7 | |

サブアドレス（ ）

発信者番号通知 発信者番号通知する 発信者番号通知しない
 INS ネット 64 申込内容に従う

サブアドレスなし着信 着信する 着信しない
 グローバル着信 着信する 着信しない

・発信・着信 2

接続機器 接続しない 電話機 ファクス付き電話機・モデム・Lモード対応電話機
 HLC 設定 しない する
 発信規制 規制しない 0 発信規制 外線発信規制
 着信拒否 しない する

・キャッチホン・番号通知

キャッチホン 使用しない 疑似キャッチホン INS キャッチホン
 ナンバー・ディスプレイ発信者番号通知 しない する
 キャッチホン・ディスプレイ発信者番号通知 しない する
 ネーム・ディスプレイ発信者名通知 しない する
 モデムダイヤルイン着信電話番号通知 しない する
 メッセージあり情報通知（Lモード関連） しない する
 メッセージあり情報通知電話番号（Lモード関連）（ ）

・なりわけ

INS なりわけ しない する

疑似なりわけ しない する

疑似なりわけ番号

| | 相手先名 | 電話番号 | サブアドレス |
|---|------|------|--------|
| 0 | | | |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |

なりわけ動作設定

識別リング

セキュリティ (着信拒否)

・その他

FAX 無鳴動着信

しない

する

受話音量調整

小

中

大

内線呼出信号設定

呼出信号 1

呼出信号 2

ダイヤル種別

PB 固定

DP 固定

設定記入シート

■ TEL2 ポート設定

・発信・着信 1

発信者番号 ()

着信する番号

| | 着信する番号 | | 着信する番号 |
|---|--------|---|--------|
| 0 | | 4 | |
| 1 | | 5 | |
| 2 | | 6 | |
| 3 | | 7 | |

サブアドレス ()

発信者番号通知

発信者番号通知する

発信者番号通知しない

INS ネット 64 申込内容に従う

サブアドレスなし着信

着信する

着信しない

グローバル着信

着信する

着信しない

・発信・着信 2

接続機器

接続しない

電話機

ファクス付き電話機・モデム・Lモード対応電話機

HLC 設定

しない

する

発信規制

規制しない

0 発信規制

外線発信規制

着信拒否

しない

する

・キャッチホン・番号通知

キャッチホン

使用しない

疑似キャッチホン

INSキャッチホン

ナンバー・ディスプレイ発信者番号通知

しない

する

キャッチホン・ディスプレイ発信者番号通知

しない

する

ネーム・ディスプレイ発信者名通知

しない

する

モデムダイヤルイン着信電話番号通知

しない

する

メッセージあり情報通知 (Lモード関連)

しない

する

メッセージあり情報通知電話番号 (Lモード関連) ()

・なりわけ

INS なりわけ しない する疑似なりわけ しない する

疑似なりわけ番号

| | 相手先名 | 電話番号 | サブアドレス |
|---|------|------|--------|
| 0 | | | |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |

なりわけ動作設定

 識別リングング セキュリティ (着信拒否)

・その他

FAX 無鳴動着信 しない する受話音量調整 小 中 大内線呼出信号設定 呼出信号 1 呼出信号 2ダイヤル種別 PB 固定 DP 固定

設定記入シート

■ TEL1・TEL2 ポート共通設定

・三者通話・通信中転送

- 三者通話 使用しない 疑似三者通話する 三者通話する
 話者切替タイム () 秒 4 秒
 通信中転送 使用しない 使用する

・着信転送

- 着信転送 使用しない 疑似着信転送する 着信転送する
 着信転送トークン設定 転送トークンなし、転送元トークンなし
 転送トークンあり、転送元トークンなし
 転送トークンなし、転送元トークンあり
 転送トークンあり、転送元トークンあり

・着信転送 転送元・転送先電話番号設定

| | 転送元電話番号 | 転送元サブアドレス | 相手先名 | 転送先電話番号 |
|---------------------|---------|-----------|------|---------|
| 契約者回線番号用 | | | | |
| ダイヤルイン i・ナンバー用 1 | | | | |
| ダイヤルイン i・ナンバー用 2 | | | | |

・その他

- 優先着信ポート指定 指定しない TEL1 ポート TEL2 ポート
 FAX 自動転送 しない する
 フッキング検出タイム 短い 普通 長い
 内線機能 使用しない 使用する
 ダイヤル終了識別 しない する (#) する (##)
 ダイヤル桁間タイム () 秒 4 秒
 モデムダイヤルイン用契約者回線番号 ()

・メッセージ表示 (L モード関連)

- MSG ランプ設定 (L モード関連) メッセージあり状態表示をする
 メッセージあり状態表示をしない

・迷惑電話防止

非通知拒否設定

拒否する拒否しない

迷惑電話防止電話番号

| | 電話番号 |
|----|------|
| 0 | |
| 1 | |
| 2 | |
| 3 | |
| 4 | |
| 5 | |
| 6 | |
| 7 | |
| 8 | |
| 9 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |
| 17 | |
| 18 | |
| 19 | |

設定記入シート

■ データポート設定

・ 発信・着信

発信者番号 ()
着信する番号 ()
サブアドレス ()
発信者番号通知 発信者番号通知する 発信者番号通知しない
 INS ネット 64 申込内容に従う
サブアドレスなし着信 着信する 着信しない
グローバル着信 着信する 着信しない

・ BOD 機能

リソース BOD 使用しない 発信／着信時に使用する
 発信時に使用する 着信時に使用する
スループット BOD 使用しない 使用する 使用する (BACP)
リンク追加
算出時間 () 秒 30 秒
しきい値 () % 70 %
リンク削除
算出時間 () 秒 10 秒
しきい値 () % 20 %

・ CTI 機能

CTI 情報出力 出力しない TEL1 への着信を出力する
 TEL2 への着信を出力する TEL1 または TEL2 への着信を出力する
CTI 情報出力フォーマット 表示フォーマット 1 表示フォーマット 2
CTI 発信
CTI 呼出種別設定 送ししない 呼出信号 1 呼出信号 2
CTI 呼出時間設定 () 秒 180 秒

・ その他

強制切断タイマ () 時間 10 時間
無通信監視タイマ () 分 10 分
ER 信号制御 パソコンの ER 信号を監視する 常時 ON
RVS-COM 転送 ただちに自動転送
 指定時間後に自動転送 () 秒
 アナログ機器の操作で転送

■ S/T ユニット (オプション) の設定

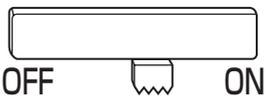
・ 終端抵抗スイッチ

OFF ON



終端抵抗ありのとき : ON
終端抵抗なしのとき : OFF

・ 内蔵 DSU スイッチ



OFF ON